10

さんかれあ

はっとりみつる

SHONEN MAGAZINE COMICS

HTTP://RAW8.NET

Free Manga online

さんかれあ
はっとりみつる
10

登場人物紹介

降谷千紘

県立紫陽高校１年生。幼い頃からゾンビ好きという変わった少年。礼弥を守るため色々奔走中。礼弥に噛まれ、ハーフゾンビになったことがある。

左王子蘭子

千紘の従姉妹で幼なじみ。学年は一つ上で散華女子の２年生。溌剌とした元気娘で、テニス部に所属している。愛称は「わんこ」。

散華礼弥

私立散華女子学園１年生。名家のお嬢様だが、父から逃れようとして転落死する。その後ゾンビっ娘として復活！脳の手術により、記憶を部分的に喪う。

来宮・ダリン・アーシェント

ボイル教授を訪ねて南の島から来日したゾンビ研究の専門家。研究にあやしい情熱を燃やしている。こう見えて礼弥より年下。

18

ダリンの忠実なるペット。ゾンビ化&半機械化している。

降谷家の人々

とーちゃん

本名・降谷敞恩。紫雨寺の住職。「いんじゃね？」と礼弥とダリンの居候を承諾。

じーちゃん

蘇世丸を造り出した張本人。名を茹五郎と言い、ZoMAではボイル教授と呼ばれる。

ばーぶ

車にハネられて死んでしまったが、千紘と礼弥が作った薬で蘇生。

降谷萌路

中学1年生にして、降谷家の家事を切り盛りするしっかり者。般若心経を愛読。

STORY

ZoMAで判明した礼弥の“可能性”。その希望を確かなものにしようと千紘は焦るが、記憶喪失の礼弥からは不審者扱いされてしまう。事情を知った蘭子は、礼弥をアイドルに仕立て、始まりの地・「廃墟」でショック療法を試みる。結局それは失敗に終わったが、礼弥は自らに潜む“食欲”と“思い出”を意識し出す。そんな折、茹五郎から届いた手紙の指示に従い氷穴に赴いた千紘は、氷漬けのゾンビを発見。茹五郎の嫁と名乗るお時を復活させたのだった！

MITSURU HATTORI presents

そこで……
見てしまったんだ……
かーちゃんの……

CONTENTS

第47話 出来…上がった… 5
RAIN FOR THE PEAR

第48話 お…時… 27
MATAIMO

第49話 たとえ…私が… 53
POOMSPAY

第50話 見て…しまったんだ… 77
SOLOS/PESCENPENTS

第51話 ここに…来てくれるまで… 109
EXIT HUMANITY

第52話 取り…返し… 147
ZOMBIE RESURRECTION

SANKAREA 10

発行：株式会社 講談社

©MITSURU HATTORI 2014

マガジンKC	KCM5062	2014年制作	http://www.studio-hami.net/	Printed in Japan	複製不能

★この物語はフィクションです。実在の人物、団体、出来事などとは一切関係ありません。
<掲載／別冊少年マガジン2014年1月号～6月号>

vol.10 SANKA

HAMI COMICS

茹五郎さんが……
蘇世丸を作り始めた
きっかけ……
柚菜さんの……
一件で…研究を
やめたこと……
……そして
そう…
それは――
第47話
出来…上がった…
RAIN FOR THE DEAD

それは――

明治の初め――

あの時代
奥羽ではまだ
度々凶作に見舞われる
ことがあって

周リの集落でも
飢えから疫病が蔓延し
たくさんの死者が
出るようなことが

繰り返されて
おったべ……

餓死供養塔

この時
茹五郎さんは
齢十八にして
牛や猪を素手で
仕留めるような
集落一の
大男だった
そうな――

ちょ…ちょ――っと
待ったっ!!!

明治の初めで
18って…

いつから
生きてんだよ
じーちゃんは!!!

がば

わりや…?
薬の副作用で
長寿になって
しまったん…
聞いとらんべ……?

い…いや……
聞いてはいたけど
マジでか……っ!!
そ…それより
大男だった
わけ……？
まぁ…その頃はまだ
私は苗五郎さんと
出会ってなかったもんで
全部聞いた話じゃが
当時モテモテで
集落の女子さ全員から
毎晩のように
逆夜這いかけられとった
みたいで……
いや そんな
情報はいいから…

じゃが
別に女子だけじゃねぇ
集落の者 みなから
好かれておった
ごり
ごり

かつて近くに住んでいた
藩医からこっそり借りて
模写したという
蘭学や民間療法……
薬草などの書を元に
ごり
あらゆる病のための薬を
独自に調合するということを
しておったんじゃ

それがまた
効果てき面と
評判になり

山向こうの集落からも
わざわざ人が
押し寄せるほど
繁盛したそうだべ

まぁ 繁盛というても
※シダミやワラビの根で
飢えを凌いでおる
農民達の暮らしを
十分わかっておるゆえ

ほとんど見返りも
受け取らず みなに
奉仕しておったそうな

※シダミ　ナラの実。アクやエグさも取れなかった場合の代用としてこの時代は食されていた。

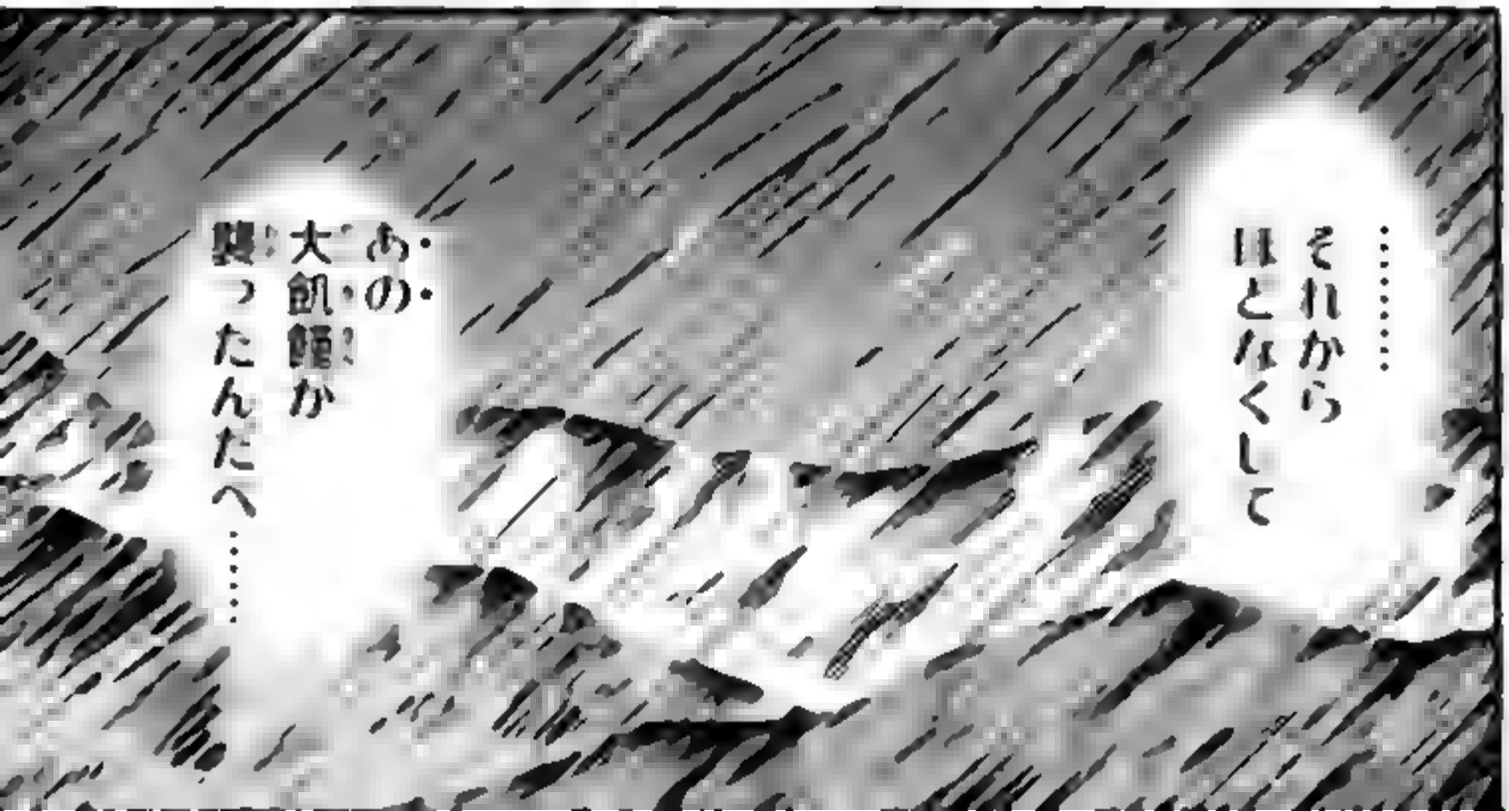
そんな折……
茹五郎さんは

隣村の
女子を嫁に
もろうたべ……

それが……

貞…さん…

茹五郎さんの
やることなすこと
何ひとつ文句し
不満も漏らさず
常に一歩後ろから
支えてくれていた
そうたへ
自さんはとても物腰の柔らかい
謙虚な人しゃったそうて


……
それから
ほとなくして
あの
大飢饉か
襲ったんたへ……

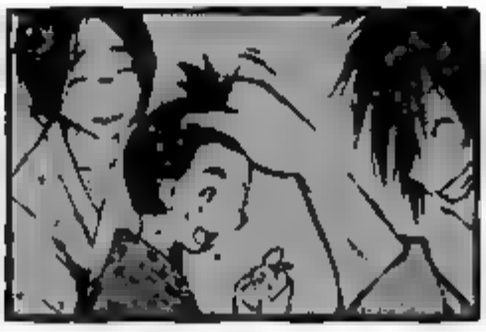
その年は春先から
初夏にかけて
大荒れの天気で

綿入れなしでは
過ごせんほど
凍える日が
続いてのう……

田畑は濁流に沈み
家屋は土砂に
埋まるような
酷い有り様で

ついに茹五郎さんの
集落でも病が流行り出し
体力のない者から
一人…二人と

死んで
いきおったそうな……



この時…茹五郎さんが
作っておる
民間薬だけでは
どうすることも
出来ないのは
明らかだった
……

それで……
茹五郎さんは
大量の西洋薬を求め
上京するという
決意をしたんだべ
……
え…でも

その時代の
市販薬とかって……
まだかなり
高価なんじゃ……
んだ…
集落の病人 みなに
行き渡る分なんて
買えるわけね……

じゃあ
くすねるしか
ないってわけね
そうするしか…

じゃが…今みてぇな
交通網なんて
奥羽にまだ出来とらん
時代じゃ……

道中も
生半可なもんじゃね
……

それでも……
茹五郎さんの
意志は固かったべ

この頃 貞さんも
体が弱りつつ
あったから

なおさら
このまま居られる
わけがなかった……

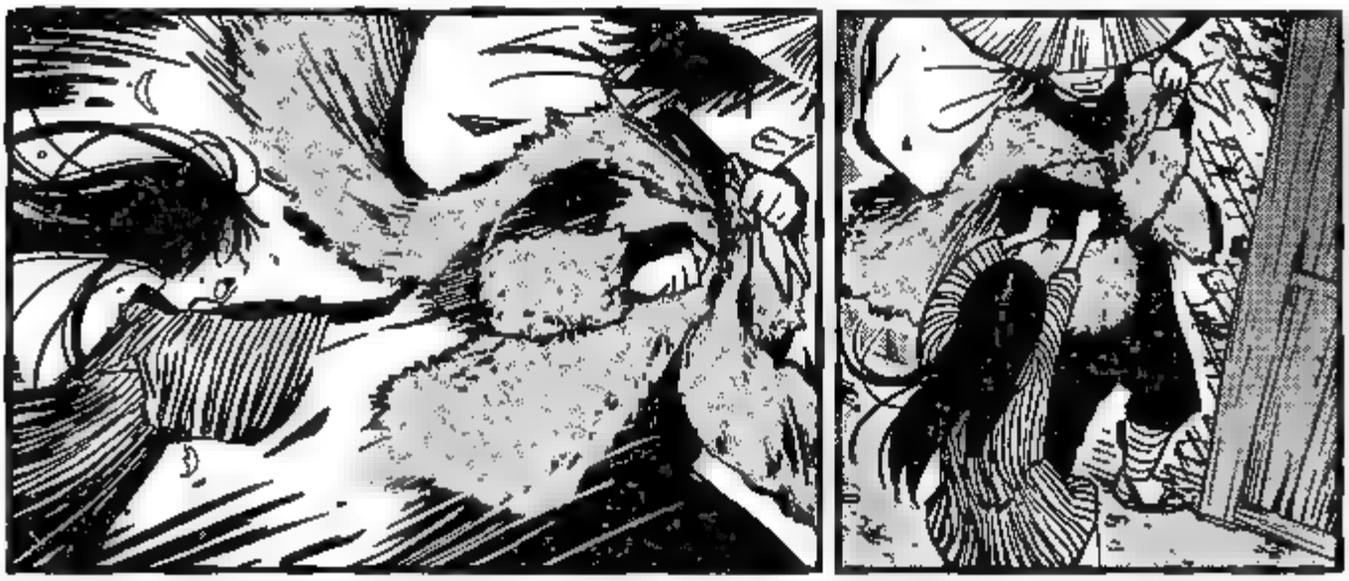
一刻の猶予もない……
手早く支度をし
旅立とうとした
その時――

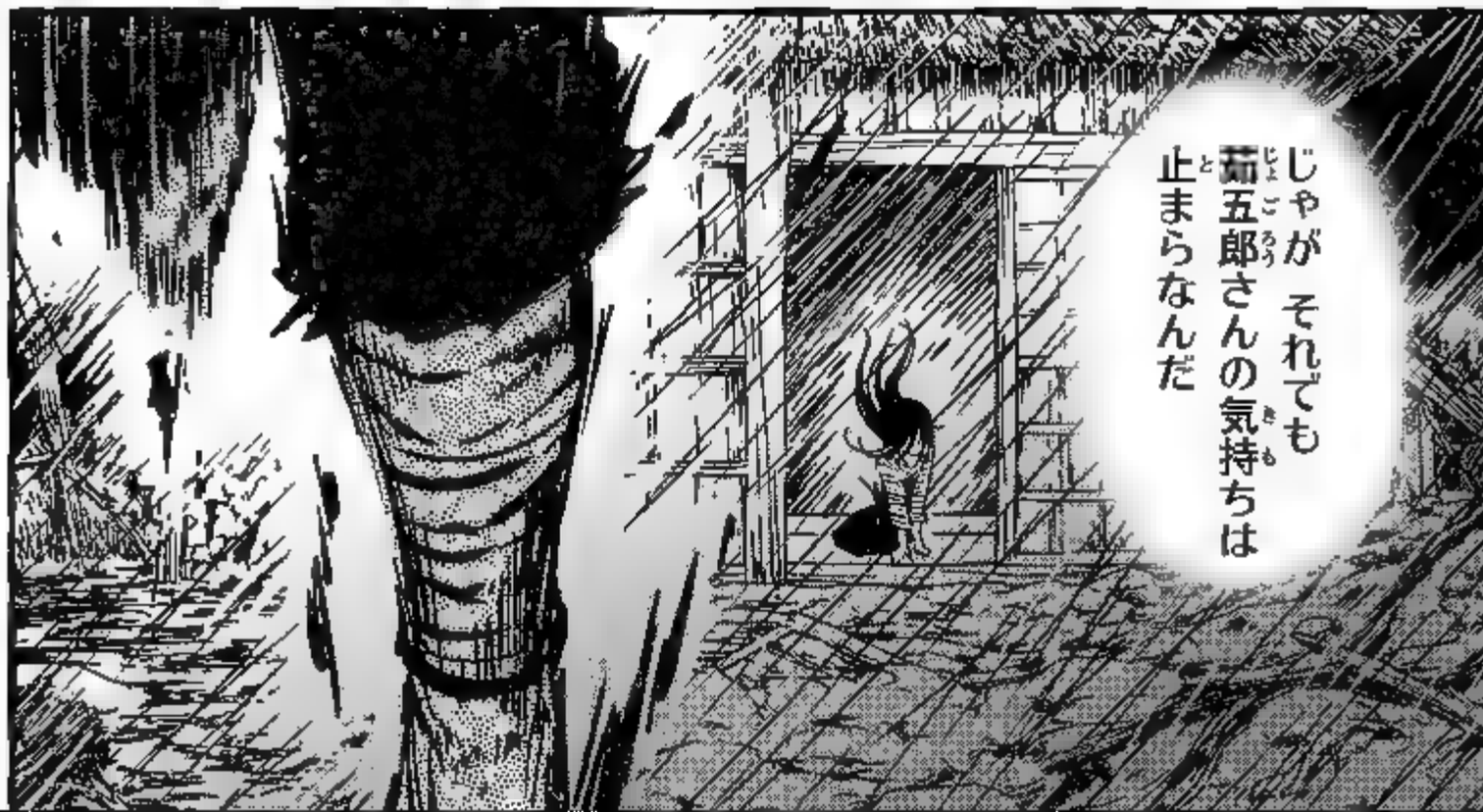
ゴ
オ
オ

……て

いかん…といて
……

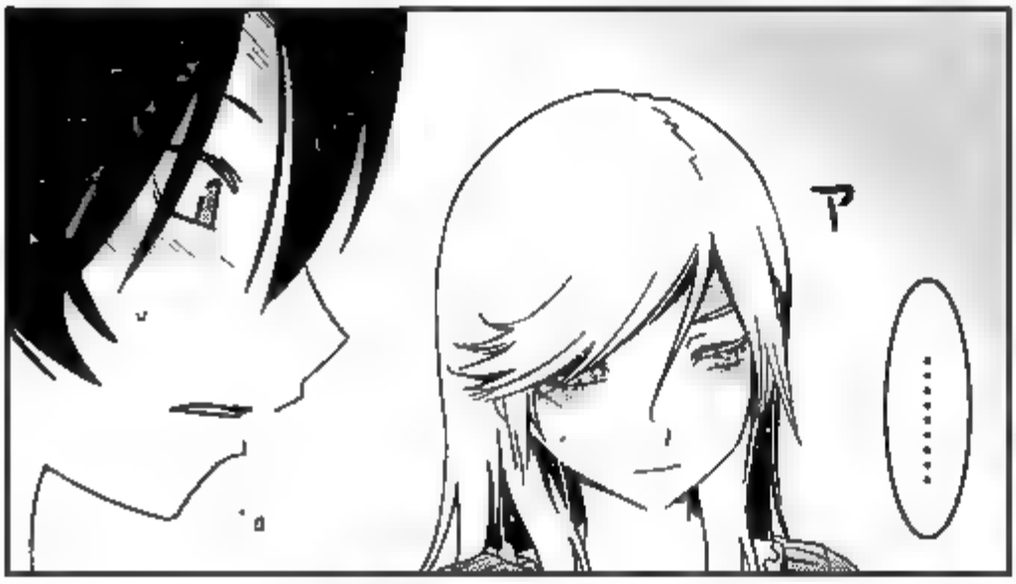
あの…
貞さんが
茹五郎さんに
初めて見せた……
ねが……い…
我が儘な…姿——




じゃが それでも
五郎(ごろう)さんの気持(きも)ちは
止(と)まらなんだ

貞さんの言葉に
一瞬たじろぐも
すぐに見定め直し
豪雨の中
突き進んだ
集落を……
貞を救うには
これしか無い
……!!
……
それが
それが己が
使命と信じ――

ア
ア
ア


ア
……

ア
ア

……
そ…それで
上京したって
わけか……
その後
薬をどこかで
手に入れて…
えっと…
結局……
間に合わな
かったべ

茹五郎さんが…
薬を集落に
持ち帰った時……
みな 既に
息絶えておった
……

貞さんも――

罪悪感と絶望感に
打ちひしがれた
茹五郎さんは
その日から
まるで取り憑かれたかの
如く
これまでの知識と
手に入る全ての
材料を組み合わせ
……
何度も何度も……

ゴリ
ゴリ
何度も何度も何度も何度も
ありもしない薬を求め
ガッ
ガリッ
ブン
ブン
ブン
不眠不休で
調合に取りかかった
……

…じゃが
そんなもの
当たり前じゃが
そう易々と
出来上がる
もんじゃね……

一つ試薬が出来ては
洞窟奥に横たわらせた
集落の者に
飲ませ……
また違う
試薬が出来ては
別の者に飲ませ
……

いつか……
どれかの試薬で
効果が現れることを
信じて……
五日…
十日……
ひと月……
食事も
ほとんど摂らず……
ひたすらその行為を
続けた……

体はみるみる
痩せ細り……
もう 大男の風貌も
消え失せた……

それでも
手は止めん……

〝あれ〟が
出来上がる
までは——

はぎさ
ハァ…
調合を始めて
四十九日目——

ついに……

お

薬が……

おお

おおおお

出来上がった……

さんかれあ

第48話(だい)　お…時(ぴ)…

MATANGO

しょ
こ

貞よ…
黄泉返り
おったのか…あ
わしが……
わしが悪かった……

わしが…
さ
だ…

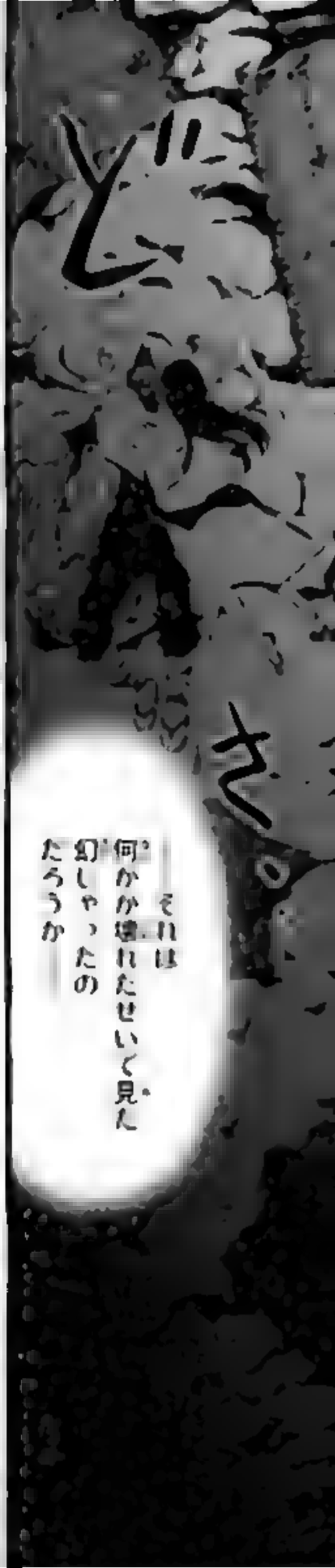
HTTP://RAW8.NET

Free Manga online

その時は
わからぬまま
意識を失った
そうだべ
……

えーいや
私は
礼弥から
初めてじーちゃんと
鉢合わせした時のことは
聞いてたけど……
その時のことを
思い出して……

茹五郎さんが
目覚めたのは
……
それから……
幾日か
過ぎた頃……


それは
何かが壊れたせいで見た
幻しゃったの
たろうか

そこはかつて
お世話になった

「」

あの 元藩医の
家じゃったべ

当時 元藩医は
苅五郎の住む集落からは
幾分離れた所に
暮らしておったが

気掛かリになって
仲間と共に集落を訪れ
その惨状を
知ることとなったべ

じゃが
発見された茹五郎さんは
栄養状態がままならぬのは
わかるとして

不可解なのが…

首元についた
歯形の痕……

それについては何も
語ろうとしなかったべ

集落の者の亡骸は既に
元落医達の手により
手厚く埋葬されておった

さらには
発見された状況から
亡くなった嫁に

手を出していたのでは
ないかと巷で
噂になってしまい

元藩医の家から
一歩も出ぬまま

ひと月 ふた月と
過ぎていったべ…

そんな茹五郎を
知ってか知らずか
ちょっかいを
出す者がおった

思春期に入り
異性に興味津々の
元藩医の一人娘

近所の男共では手に負えぬほど
やんちゃだった娘にとって
彼は恰好の遊び相手であり

茹五郎さんにとっても
ひと時の心の癒しに
なったはずだべ…

やがて娘からの
半日痛うん招飼て
医学を学び
数年後に日東京の外れに
小さな診療所を
開業するまでに至ったべ
二人は親しき
間柄となり
え
あれ？
その
娘って
まさか
あー…やっと
気付いたべか？
私たべ
そーゆー
部分の話は
端折っていいから!!

ま ま わかっとる
本当は夫婦生活が
バラエチィにとんで
面白いんだべども
今は んなこと
話しとる場合じゃね
バラエチィ？
診療所の
評判は
上々でのう
二人の間に子供が
授からなんだこと以外は
幸せに暮らしておった

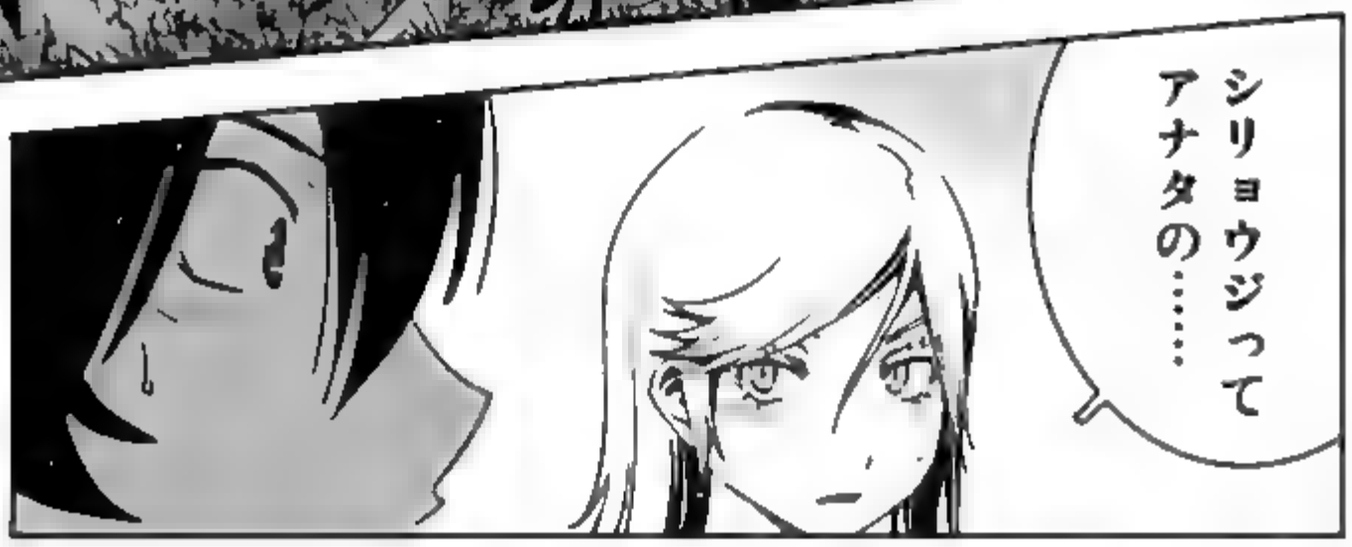
少なくとも
私はそう思って
おったべ…
……
ある頃から毎週数日ほど
茹五郎さんは
医師仲間との勉強会
とやらで…夜更けから
朝にかけて出かけるように
……なったべ…

じゃが…
妙に感じた
私はある日
茹五郎さんの
後をこっそり
付いていってみたべ……

ひたすら
歩いて歩いて
人気のない
山道を
進んでゆき
東京からも
出てしまって

ん～～～～
まっすぐ
怪しいべ…!!
……
どれほど歩いたろうか
ゴ
ゴゴ
さ。
!?
茹五郎さんが…
辿り着いたのは……

廃寺じゃった――


シリョウジって
アナタの……

そう……
私が……
そこで
見たものは
……

ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ

ぴゃあああああ!!
お…
お時(とき)……!!
はー
はー…
あ…
痛っ
ガシ
ギュ

その一件で茹五郎さんは
これまでの事情を
全て教えてくれたべ

貞さんや集落の
人々を黄泉返らせようと
したこと……

その後も
ずっと薬の完成を
密かに目指して
研究していたこと……

え…でも
もう薬を作っても
貞さん達は……

もちろん
今さら 戻ってくる
わけがねぇ

それでも
この薬が完成すれば
この世の誰かが救われる
ことがあるやもしれんと
考えたのか……

じゃが…それは
一見すれば正義感 使命感
ともとれるが……

本当は……

あの時の心の傷が
まだ癒えていなかった
だけなのかも
しれないべ……

……
「…己がエゴじゃ」

でも…私は
そんな所も…
ひっくるめて……
茹五郎さんの
ことが……
好きじゃった
し……
それに…
何より……

私自身が
金に目が眩んで研究に
ドハマリしたべ……
いいいいい
完成したら
世界中から
お金ががっぽ
がっぽたべ!!
約束しましょ……
どちらか先に命を
落とすようなことが
あったら骨は実験に
使ってもいいって…

私は…
死んだべ……
！

まぁ…そんな感じで
昼は評判の……
町医者夫婦……
じゃが…夜は
蘇生薬の研究をする
マッドサイエンチスト
という生活が…
長年続いたべ……
こんなが
いちばん。
そんな…
ある時じゃった……
ぽふっ

それは
本当に……
唐突な…
出来事……
まさか……

裏山で採取した
美味そうなキノコが
毒キノコ
だったなんて…！
おとぎばなし
ぷにぷに

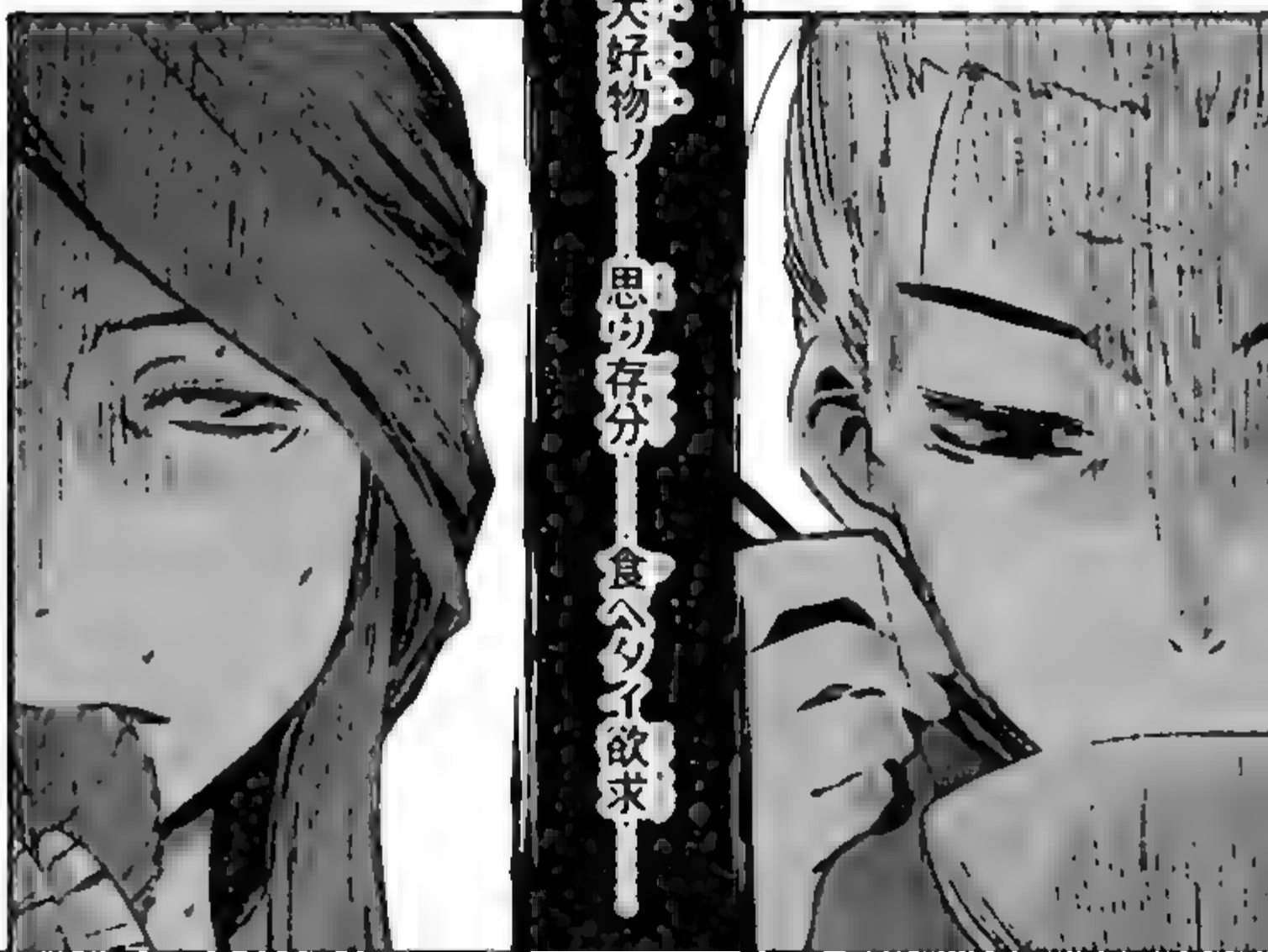
……私の
死に方はともかく
こうして
茹五郎さんは
二度も嫁を
失ってしもうた……

じゃから……
実験云々というより……
魔が差したの
じゃろう……

それで茹五郎さんは
私を……
黄泉返らせて
しもうたんだべ……

私への薬の効果は
ご覧の通り…中々
上手くいってのう……
世間様には内緒で
家の奥でひっそりと
暮らしつつ
自分自身を
観察する日々が
しばらく続いたべ

それて…ある時
気付いたんだべ……
患者は
アジサイ以外の
何かを……
本能か
求めていることに……
そう……


大好物ノ
思ヒ存分
食ヘタイ欲求

体の腐敗とは別に
対処しなければならない
〝それ〟に気付いた私は……
そのことを茹五郎さんに告げ……
研究を託し……

異常を来す前に
〝身を引く〟ことにしたべ
その序でとして……

最後の実験を
自ら志願したべ……

ピチャ

ピチャ

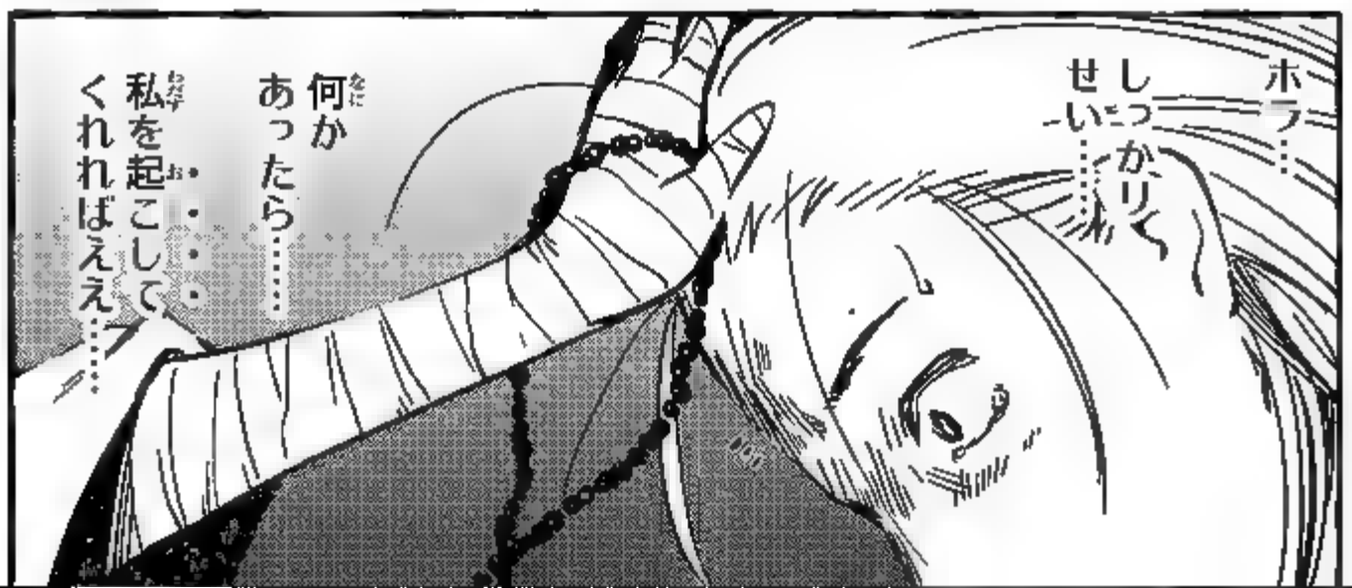
ピチャ

それが……この
氷漬けだったという
わけだべ……

お時…本当にすまなかった…
最後の最後まで研究に付き合ってもらうことになってしもうて……
なぁに
私はとーっても…楽しかったべさ……
ピチャ
私が凍った後も……様子見に来てくれたら嬉しいべ……
身内じゃないとこういった思い切った実験もできんじゃろうし……私もなかなか楽しみだべ……
お時……
わし…わしもう研究止めてもいいかと思うておる……
ピチャ
本当にこの研究が幸せに繋がるのかわからなくなってきた……
ピチャ
何言うてるべ…今各地から色々と誘いが来ておるんじゃろう…？

ああ……
お前がうっかり家の外を
出歩いてしまったせいで
大騒ぎになって
それを聞きつけた
国内外の怪しい
研究機関とやらが
訪ねてくるように
なってしもうた……
新朝
死人現る
いやぁ…
つい……な

もう ここまで
騒がれてしもうた以上
普通の生活には戻れん……
そう考えれば
誘いに乗る道しか
残っておらんのかもしれん
じゃが…
わし一人で
この先……

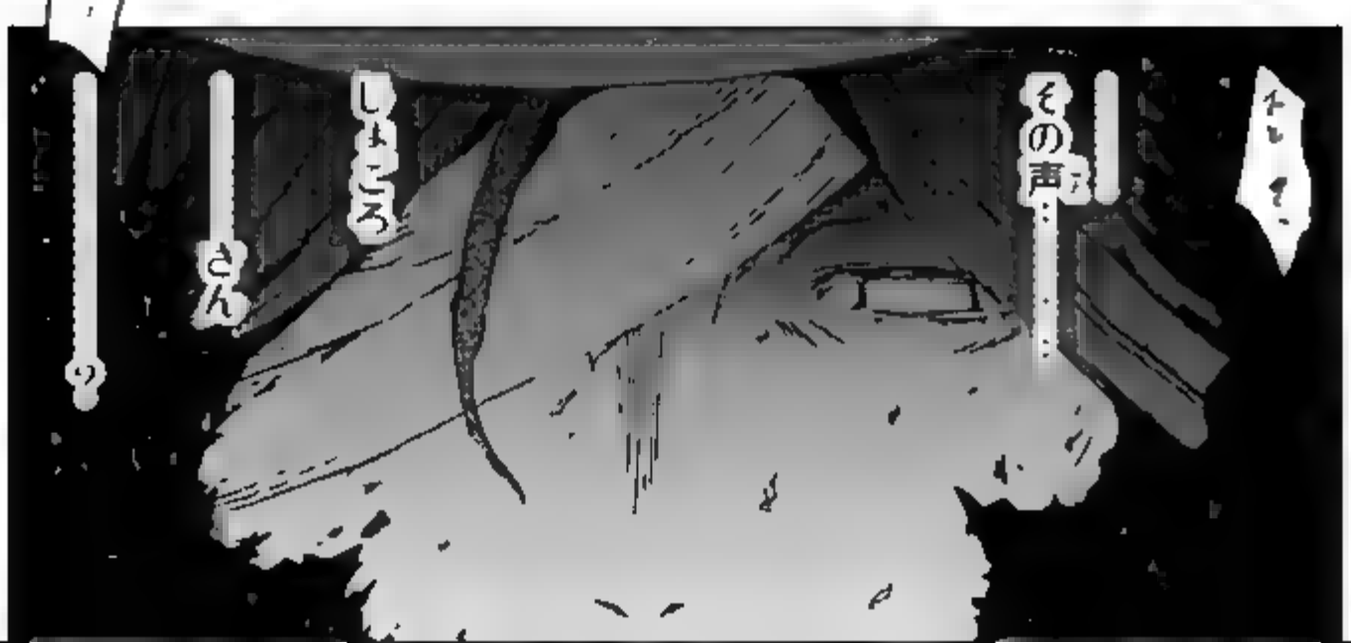

ホラ…
しっかりくせい…
何か
あったら……
私を起こして
くれればええ……

話できるかはわからねか……
あんたの話を聞いてあげることくらいはきっとできるさ……
いひっ
まぁ…そんなに寂しかったら別の人を娶ってもいいべさ…
私のことさえ憶えていてくれるのなら…
そんで…子供作りな…
そうすれば…寂しさも紛れるべ…
たから…茹五郎さん…泣くなや……
……
……それで結婚したのがオレのばーちゃんで……
その子供がオレのかーちゃんだったんだ……
……

じゃから……
柚菜さんがああなったことで
茹五郎さんの心が
再び乱れてしもうたんじゃ……
ドクン
私の意識が消えてから
どのくらい経った時じゃろうか

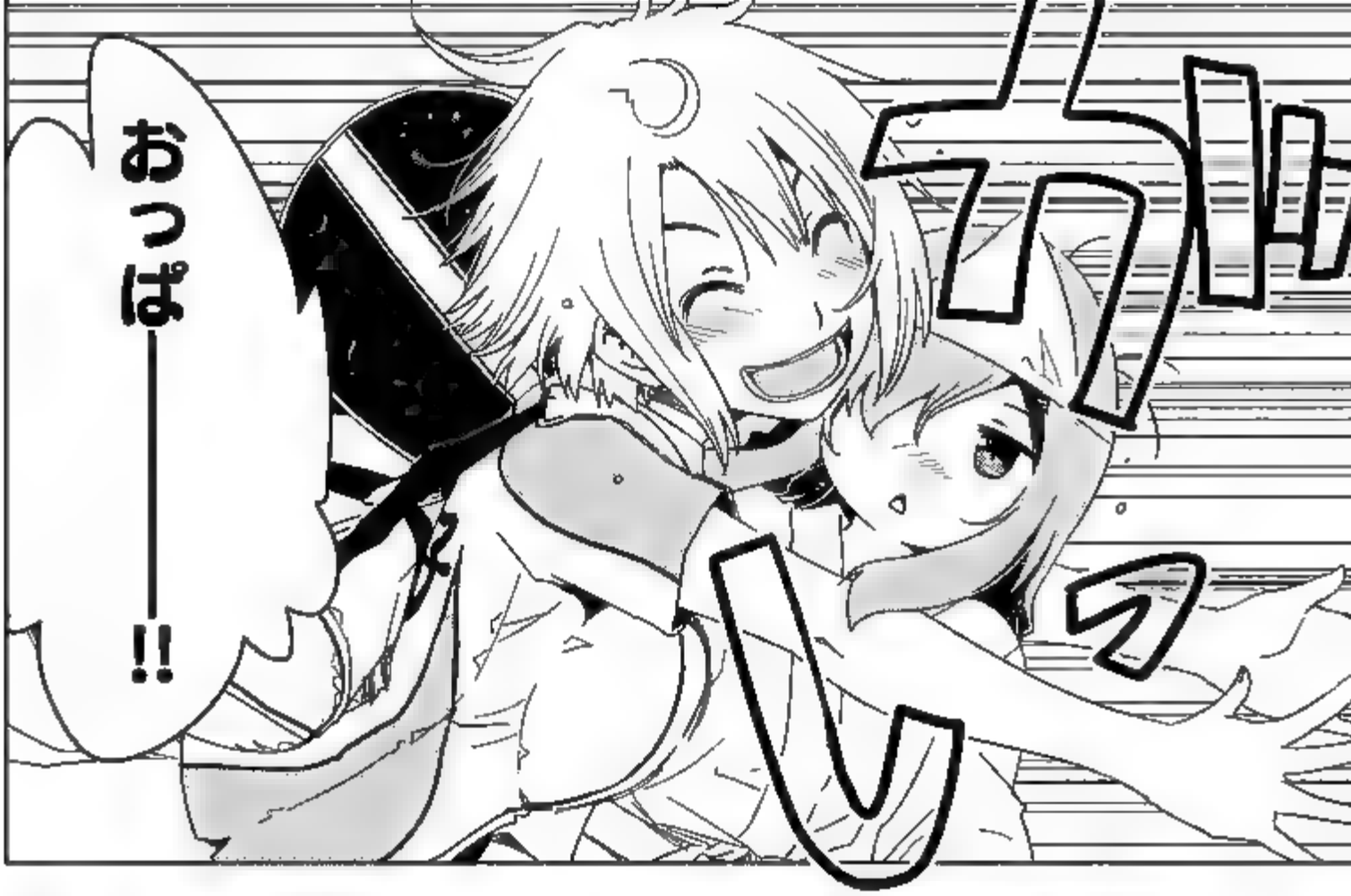
ん

誰
たへ


その声
しょころ
さん

……その私の思い出とはかけ離れた姿の茹五郎さんから聞かされたのは――

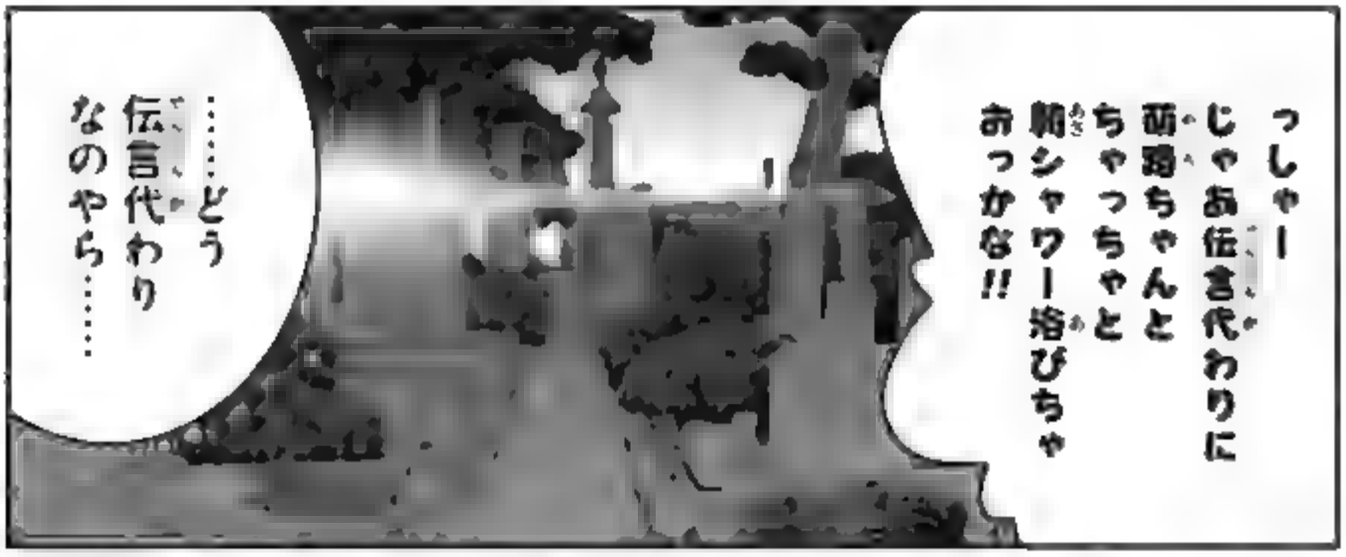
降谷家之
チチチ…
まったく…
本当に兄の奴
夜に帰ってきません
でしたな
さて…私は
朝食前まで
写経でも……
たた
た
チチ
第49話
たとえ…私が…
DOOMS DAY


おっぱ――!!

萌路ちゃん
相変わらず
早起きだねぇ～
チヒロは
どーせ まだ
寝てるんでしょ？
あいや
兄は昨夜から
出かけております

えっ…
どこ行ってんの？
何やら
富士の麓の
キャンプ場が
云々と……
は…？
何それ…

……
ー？
何か 兄に伝言 残しますかの？
くる？


っしゃー
じゃあ伝言代わりに
萌羽ちゃんと
ちゃっちゃと
朝シャワー浴びちゃ
おっかな!!
……どう
伝言代わり
なのやら……

私の
意識が消えて
から
どのくらい
経った時
じゃろうか

私が…長い眠りから
起こされ……たのは
茹五郎…さんの
一人娘……
柚菜…さんが……
事故に……遭った
時だったべ……
事…故……

うっ……！
っ…
ちょ…ちょっと
どうしたの!?
い…や
んば！

オレ…前から
かーちゃんに
関係した……ことの
記憶が何故か
曖昧で……
時々…こう……
思い出し
そうになると
頭痛くなって……
え…何よ
それ……
記憶障害!?
わっかんね
……
ズキ…
ズキン

きつい…なら
やめておくべか……？
いやっお時さん頼む……
教えて…くれ……!!

それを知る為に…ここに…来たんだ……
だから…続きを……

お時イィ…頼む……少しだけ起きてくれぇ……！
もし…もしワシの声が聞こえておるなら…応えて欲しいんじゃあぁ…
頼む…

……ごろさ…？

おお…！
そうじゃ……!!
よかった…
脳はまだ
無事じゃったん
じゃな……!!
……私は
どのくらい……
眠っておったべ……

…もうかれこれ
100年は経ったかの
……
ワシはこれまでの
研究中に大量に受けた
蘇者の毒の副作用にて
まだ長らえておる……

それは
ええとして……
頼む……ワシの話を
聞いてくれい…！
…今
渡行っておる
ものは
何だべ…？

げっつ…
びっ
なぞ 言うとる
場合じゃ
ないんじゃ
いかっ

お時…
実はワシ……
数十年前に
新しい嫁を
もろうたんしゃ……
て…今は
娘もおって…
孫達もおる……
おお…
そう…
だべか……
それは……
何より……だべ……
じゃが……
その娘と
孫達の乗った
車が……

原因は急な悪天候
による視界不良で
老朽化で工事中じゃった
場に気付かず
突っ込もうとして
目の前に突如出現した
通行止めの標に
ぶつかって運転を
誤ってしまったんじゃ…
実は……娘達は
ちょうど東北におった
ワシの元を
訪ねに来てくれて
おったんじゃが……
まさか…
こんなことに……
……じゃあ
娘さん…と
お孫…さんは……

娘は
娘は
娘は

正直…
もうこのまま
助からんかもしれん
状態じゃ……
そんな時に
何故ここへ来たかと
思うじゃろう…
……
事故直後…
まだ柚菜の意識があった
時のことじゃ……

救急出入口
柚菜あ!!!

しっかりせい
啜恩も今
こっちに向かって
おるからな

父さ……千紘と……萌路は……？

二人とも
無事じゃあ
何も
心配せんでええ
ガラ
ガラ
ガラ

ガラ
ガラ

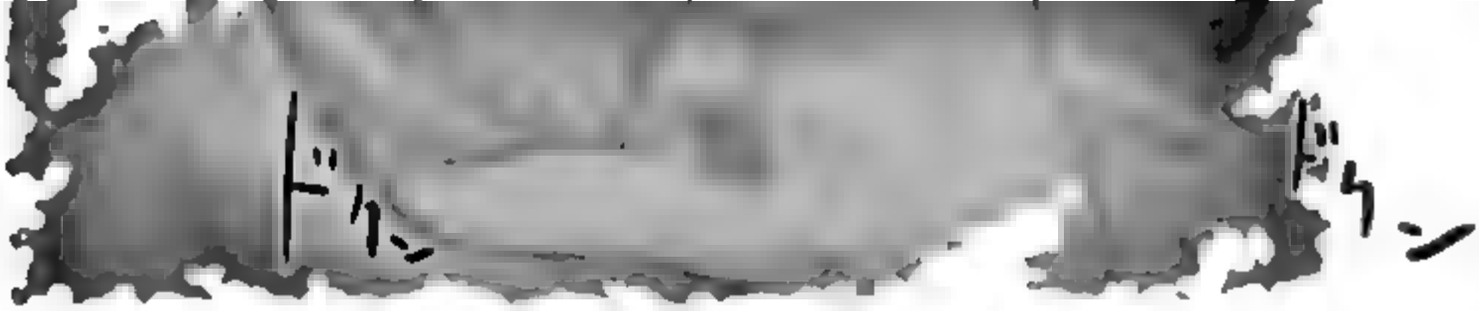
私…あの子達と……こんな急な……お別れ……したくない……

何を言うとる!!
きっと助かるわい
千紘や
萌路にまた
元気になったら
会えるわい
ガラ
ガラ
ガラ

お父さ……お願いが……あるの……

なんじゃ
柚菜よ
言うてみい
……!!
ガラ
ガラ

すまん
聞こえん……
ガラ
ガラ



私……あの子達と……約束しているんです……

来週……ずっと楽しみにしていた……遊園地へ行くって……

だから……もう少しだけ……ここに……居たいんです……

たとえ……

私……が……

ゾンビに……なっても……

まさか……
嫁の……キヨさんや
叡恩さんには
研究のことは内緒にして
おったそうじゃが……
柚菜さん…だけは
知っておった
そうじゃ……
そ……んな……
んばー
じゃが……それが
ある意味 仇となって
しまったという
ことだべ……
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン

じゃが……
その柚菜さんの
ささやかな願いを……
叶える…為には……
……
余りにも大きな代償が
待っているわね……
当時の教授なら
既にゾンビの壮絶な
終末期（terminal-late）のことは
知っていたでしょうし

茹五郎さんは
悩みに悩み……

そして藁にも
すがるような思いで
私の元に
やってきたんだべ……

じゃが……私は
なんも答えたりは
せんかった……

ただただ
茹五郎さんの語りに
耳を傾け続けたべ……

なぜなら

もう茹五郎さんは
答えを持って
おったのじゃから
……

そう……今ここで
使わずして

一体何の為の
研究だったんだ
と

こうして……
長い遠巡の……末
茹五郎…さんは
決意したんだべ……
ちょ…
チヒロ!?
じゃあ……
それって
つまり……
彼の
母親は…
つぁ……!!
大丈夫……!?
アナタ…
もう……
……した
えっ?

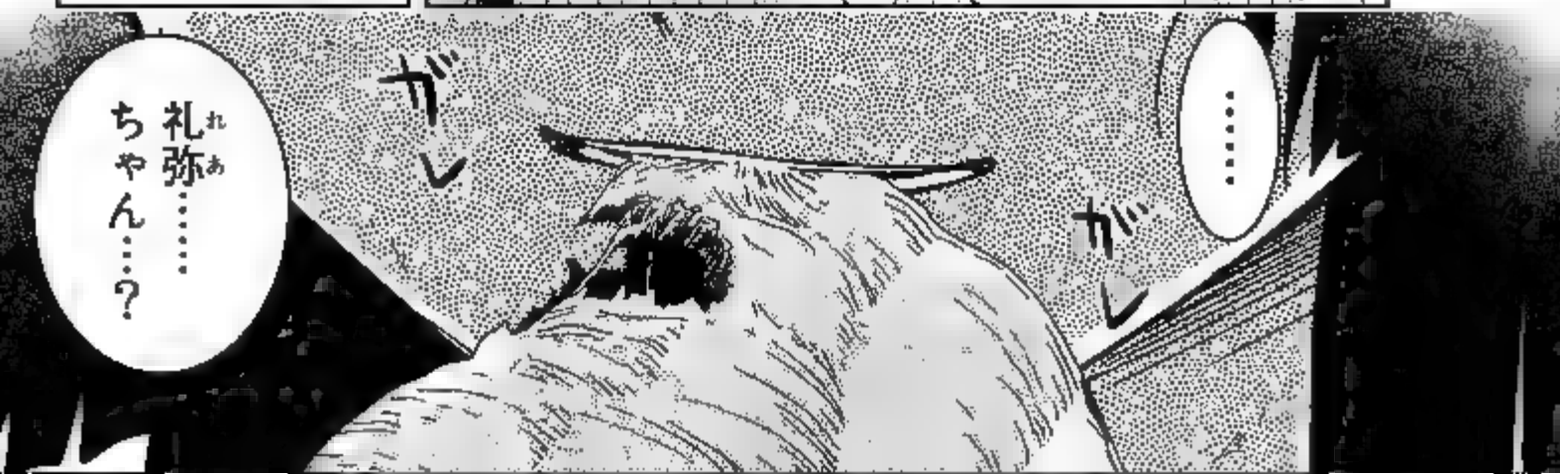
オレ……
思い出した……!!

今まで……
オレ自身……
なんで…
昔っから
ゾンビ好きだった
のか……
ずっと自分でも
不思議だったけど……
そうだったんだ……
それは……つまり……かーちゃんが――

この服は…
さーて
あんまり時間ないから10分で済ましちゃお！
あれっ？散女の制服にこの髪留め……
いや…そこまでして入ろうとしなくとも……
おや
ひょっとして——！
ぬぎぎ
るんっ
チャ

ちゃぷ…

やーっぱり
礼弥ちゃん！ なーんだ 今日
来てたんだ
居るのなら
言ってくれれば……
はっ


……
ガレ
ガレ
礼弥……
ちゃん…？

ちょ…ちょっと
何食べて……
それって
ヘチ……
ア…
H"
110
ア
コレ…も
違う……なあ…
私の……
食べたい…モノ…
ギュッ
え…?
またなんか
おかしく……!?
ン…
ひちゃ。。

ア、ハ……
コレダ……!!!

第50話　見て…しまったんだ…

ぼく
チヒロ
メロですぞ

おまえ
そのしゃべり方
やめろよー!!
ブンッ
フハハ
ムダです
ぞぉー
ひらり

あら 別にいいじゃない
古風な語りって
素敵なのよ
古くさい
だけだよー

もー コイツ
かーちゃんの仕事の
書物とか読んでるうちに
変な口癖
ついちゃったよー

そーんなこと
言ってぇー
お兄ちゃんも本当は
真似したいんじゃ
ないですかなーですぞー

フォフォフォ
たのしいですぞー
べっ 別に
真似したく
ねーし！

そもそも
こんな古くさい本
たくさん 何に
使うんだよー
大切な物
なんだから

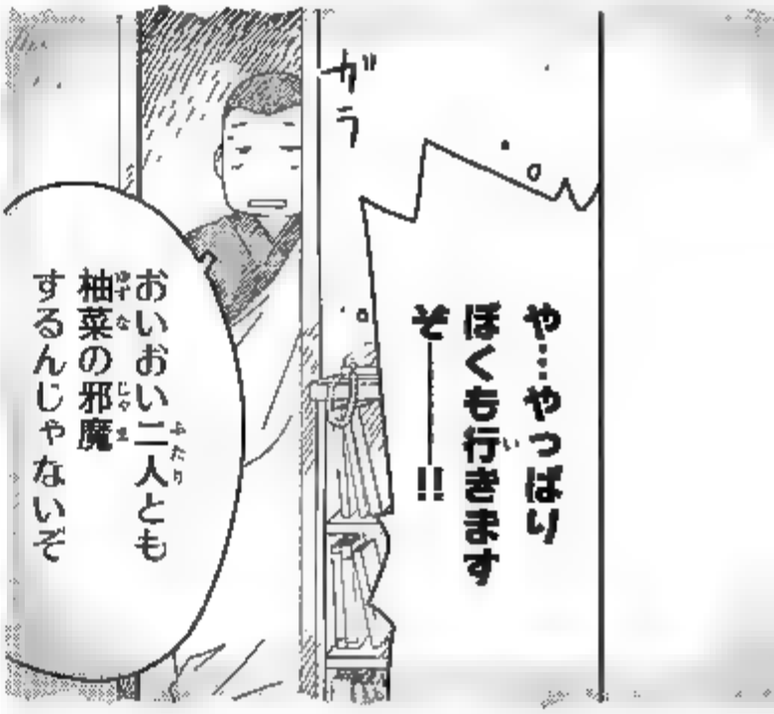
東北にいる
おじいちゃんに
怒られちゃうわよ
でも じーちゃんに
あんま会ったこと
ないしさー

そうねぇ…二人とも
あまりおじいちゃんと
会ってないわねぇ
…あ

私 週末に
おじいちゃんの所へ
行く用事があるけど
久々に一緒に
ついてくる？
えー…
車で何時間も
かかるし…
また 車酔いするから いいや
メロは
いくー!!

あらぁー
お兄ちゃんは
お留守番？
じゃあ萌路ちゃんと
二人きりで
いきますかのー

わーい
いきますかのー


ガラ
や…やっぱり
ぼくも行きます
そ――!!
おいおい二人とも
柚菜の邪魔
するんじゃないぞ

ジャマじゃない
手伝いだもん!!
やれやれ…
二人の〝柚菜好き〟は
大したもんだな

いいのよ啜恩さん
たまには私も
お父さんに孫の顔
見せてあげたいし
きっと入院中の
お母さんだって
もし家にいたら
同じこと言うわよ
ん…そうか
まぁ……
だったら
いんじゃね？

ただ 週末は天候
荒れるみたいだから
気をつけろよ
あと そうそう
来週はアレね！

ゆーえんちっ
はぁっ

アレ？
そうっ
アレ!!

ふふっ わかってます
二人ともずーっと
楽しみにしてるもんねぇ
夏からずーっと
言ってるのに
いっつも行こうとすると
誰か風邪ひいたりさー
とーちゃんも仕事
入ったりさ——
それは許してくれよ
法事はズラせないんだ……

さすがに
子供達も我慢の
限界だろうし
柚菜 お前と
子供達だけでも
いいから 来週
行ってきなさい
そうね…
スロウなんのはなやかれナー
ぎゅ

わかったわ
じゃあ 来週絶対
約束守れるように
ゆびきりげんまん
しましょ！

……そうだ

あの
指切りげんまんの
数日後

オレ達の
乗った車は
事故に遭ったんだ……

ねぇ…兄

らいしゅのゆーえんちまでには
ママ おうち帰(かえ)ってくるですぞか?

あの時(とき)
みんな覚悟(かくご)していた……
ひっ…
ひく…

くちゃ
おうち…

でも
約束の前日に……
ただいまー
何事もなかったかのようにかーちゃんは還ってきたんだ……

千紘 萌路
心配させて
ごめんなさいね
そう…
明日 遊園地
行きましょっ
オレ達との
約束を
守る為に……

ただただ
かーちゃんと二人で
一緒に行くということ
そのこと自体が
すっげー
嬉しかった
うん まだ
退院したばかり
だから
おじいちゃんから
でも お風呂の
狭いとは

ふふ……ねえ
二人にだけは
私のヒミツ教えて
あげよっか？
でも 誰にも
言っちゃだめよ
えっ
なになに？
はふ
サッ
メロは
言いませんぞ

おかーさんね
じ・つ・は
うふふ
ゾンビなのっ
そんびー？

あっ！ だから
あーんな大きな事故に
あっても かーちゃん
ピンピンしてんだっ
……
そうだったんだ
兄よ 言っちゃ
だめですぞ
あの時の話は
冗談でも
なんでもなくて……

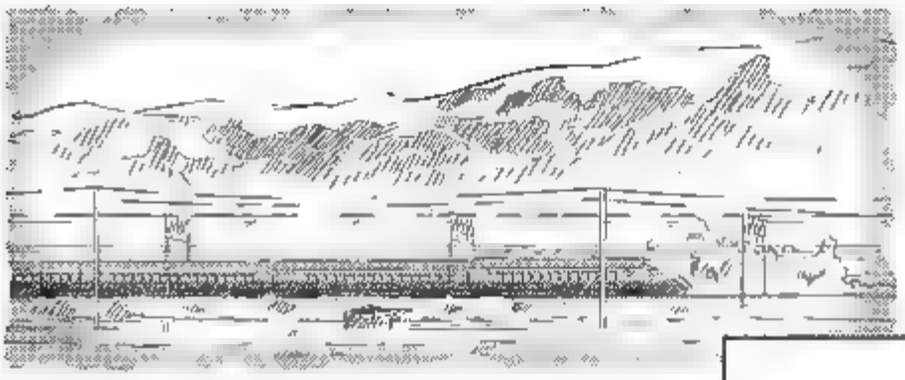
だから……
かーちゃんは
一か月後
家から
出て行くことに
したんだ……
千尋…
萌路……
あなた達のことが
大好きだから……
離れなきゃ…
いけないの……
元気でね……
バイバイ――
そうしないと
いずれ……

オレ達を
食べようとすることを
知っていたから――

でも…あの頃の
オレと萌路は
そんなことなんて
知らないで……

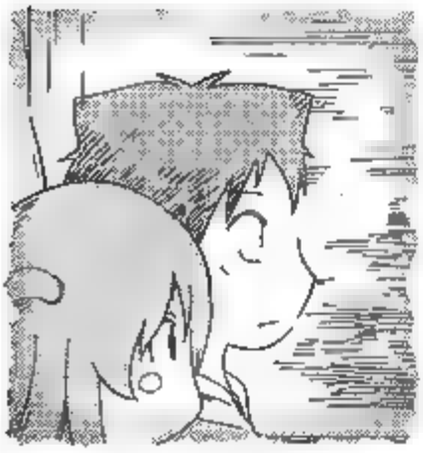
かーちゃんと
離れるのが
いやで……

その気持ち
だけで……



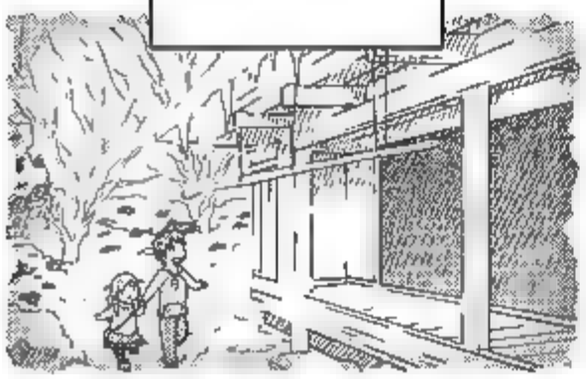
その年のお年玉を
全て使って

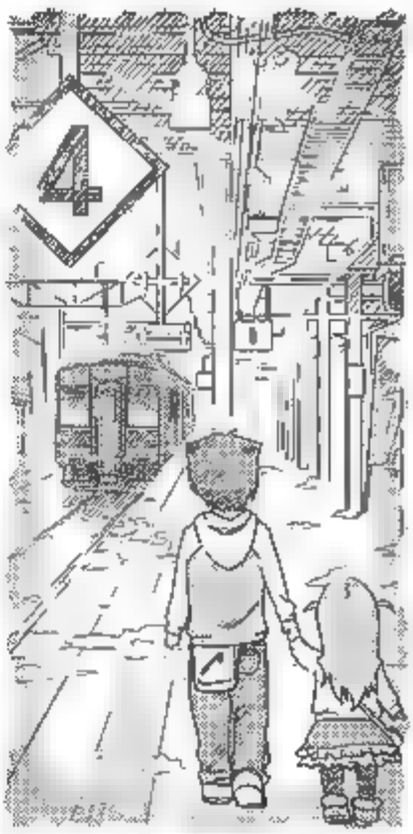
みんなに内緒で
会いに行って
しまったんだ……

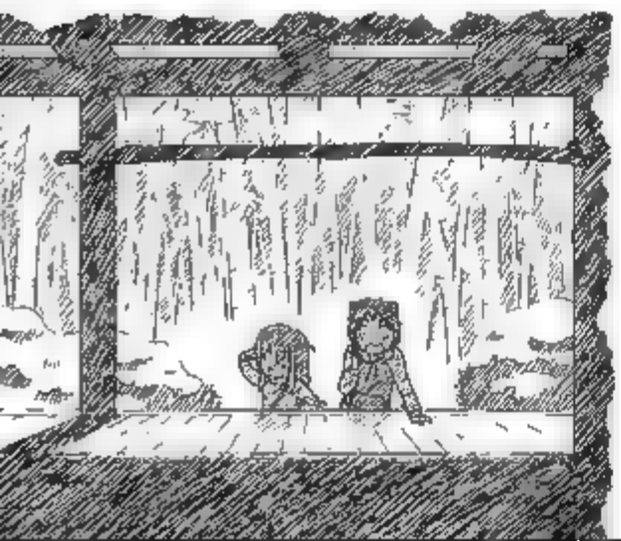


東北の
じーちゃんの家に
居るであろう

かーちゃんの
元へ……







第十話 そして誰もいなくなった

ゴゴゴ

ザザザ

ザザザ

ザザザ

3回
ゆれる…

見てしまったんだ……

かーちゃんの

雨

最期の姿を

う……わあああああああああああああああ
いかん…見てない
千紘…
萌路…!!
……そうだ……
あれを……見た後
気を失って……

目覚めた時には……
オレも…萌路も……

かーちゃんの記憶
全部なくなっちまって
たんだ……

だから…
じーちゃんはずっと
そのことを隠して……

でも…ッ

でも なんで……
かーちゃんを
あんな風になるまで
傷なんかにっ……!!

じーちゃんだったら
もっと かーちゃんを
楽にしてあげることだって
出来たはずなのに……!!!

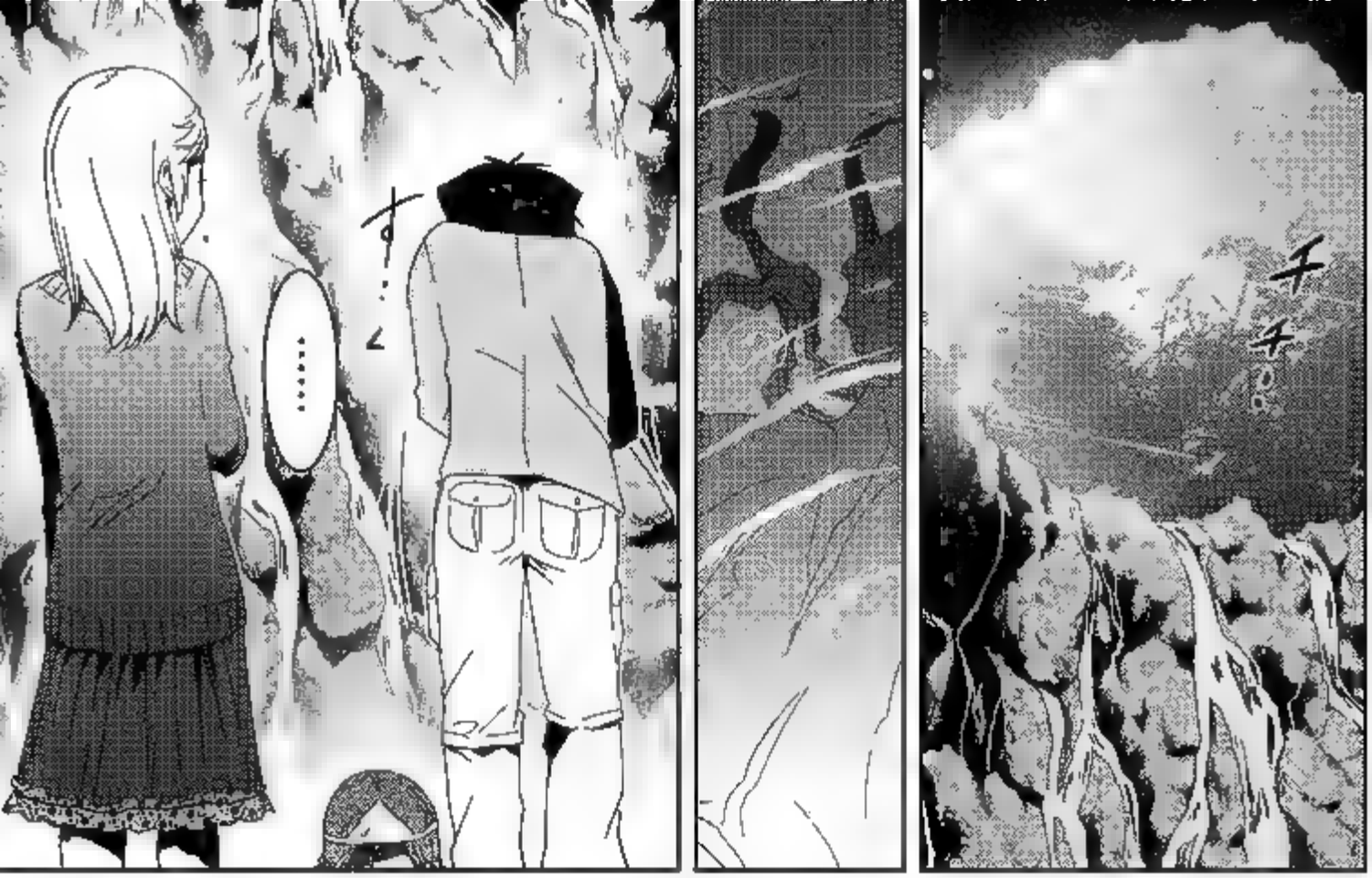
お時さんのように
凍らせること
だって……

それは…

柚菜…さんが
望んだこと……
だからだべ……

えっ

離れよう
今、お前を
最期の——最期——まで
共にしたい——と


チチ…
す…ノ
……

千紘…さんよ
頼むから……
茹五郎さんを……
責めないであげて
くれだべ……
茹五郎…さんも
あのことは本当に……
辛かった……ゆえ……
あれだけ続けた
研究を……
止めてしもうたんだべ
……
いつぞやに
お前に
言ったろう?

短い間だけ
だとしても
この町で
隆谷君と一緒に
いられれば……
それだけで……

チヒロ…

……
なぁ お時さん
教えてくれ……
ん…

ゾンビにとっての……
一番の幸せって何なんだ……？

……簡単だべ

ゴレは
一番愛するモノを……
骨の髄まで食べ尽くすこと……!!
アアアア

その人とのこれまでの〝想い出〟を……
独り占め……したかったのかもしれないべ……

……結局
ゾンビにとっての
幸せって……
フン
フン
巡り巡って
やっぱそれに
なっちまうのかな……
じゃあ
もし礼弥が……
オレを……
す！
お時さん
ありがと
色々
話してくれて

じーちゃんにも
お時さんのこと
伝えとくよ
……
いいっ
私も……
孫の千紘さんに
会うことが…出来て
何よりだべ……

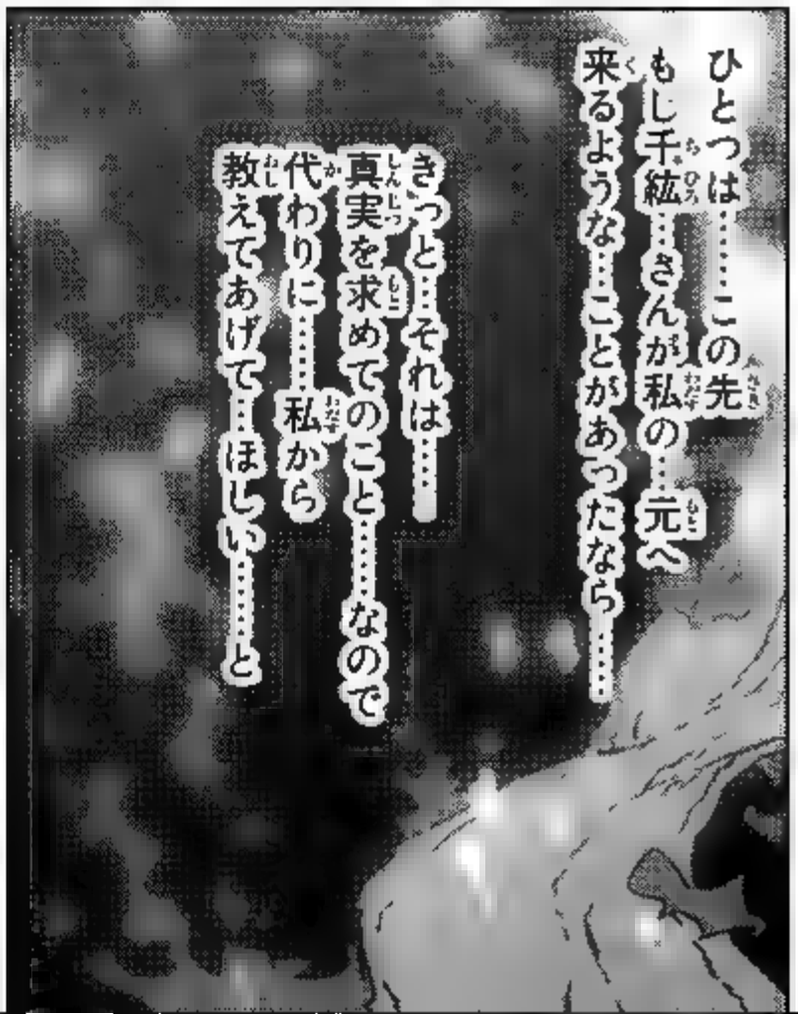
だべども
……
茹五郎さんに
伝える……必要は
ないべ……

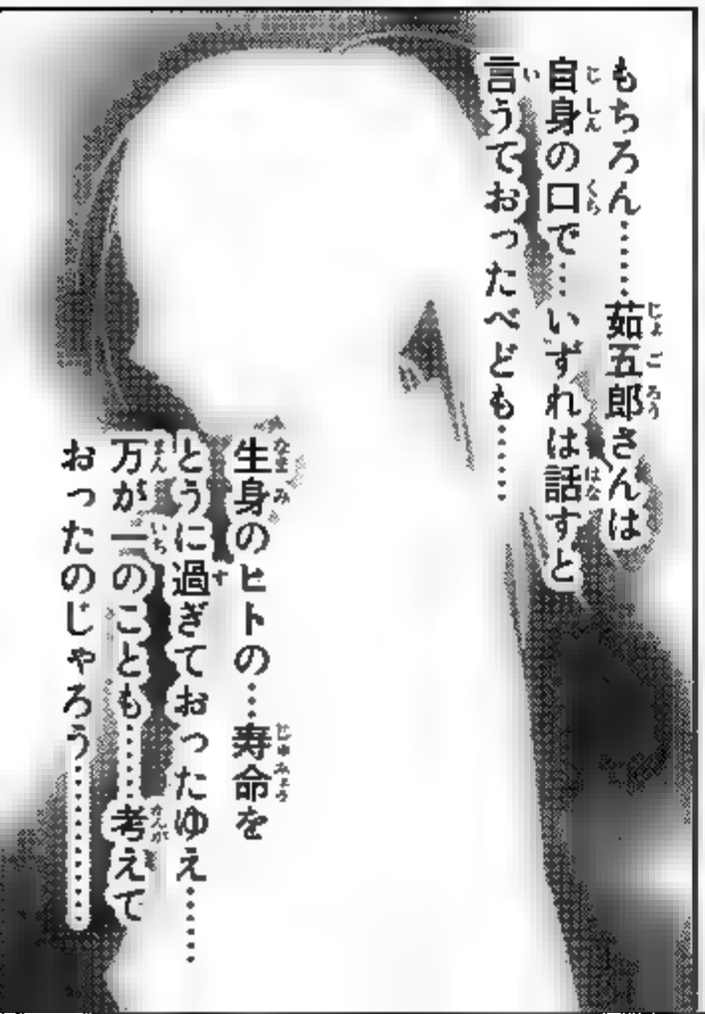
私も……
茹五郎……さんも……
僕くのだから

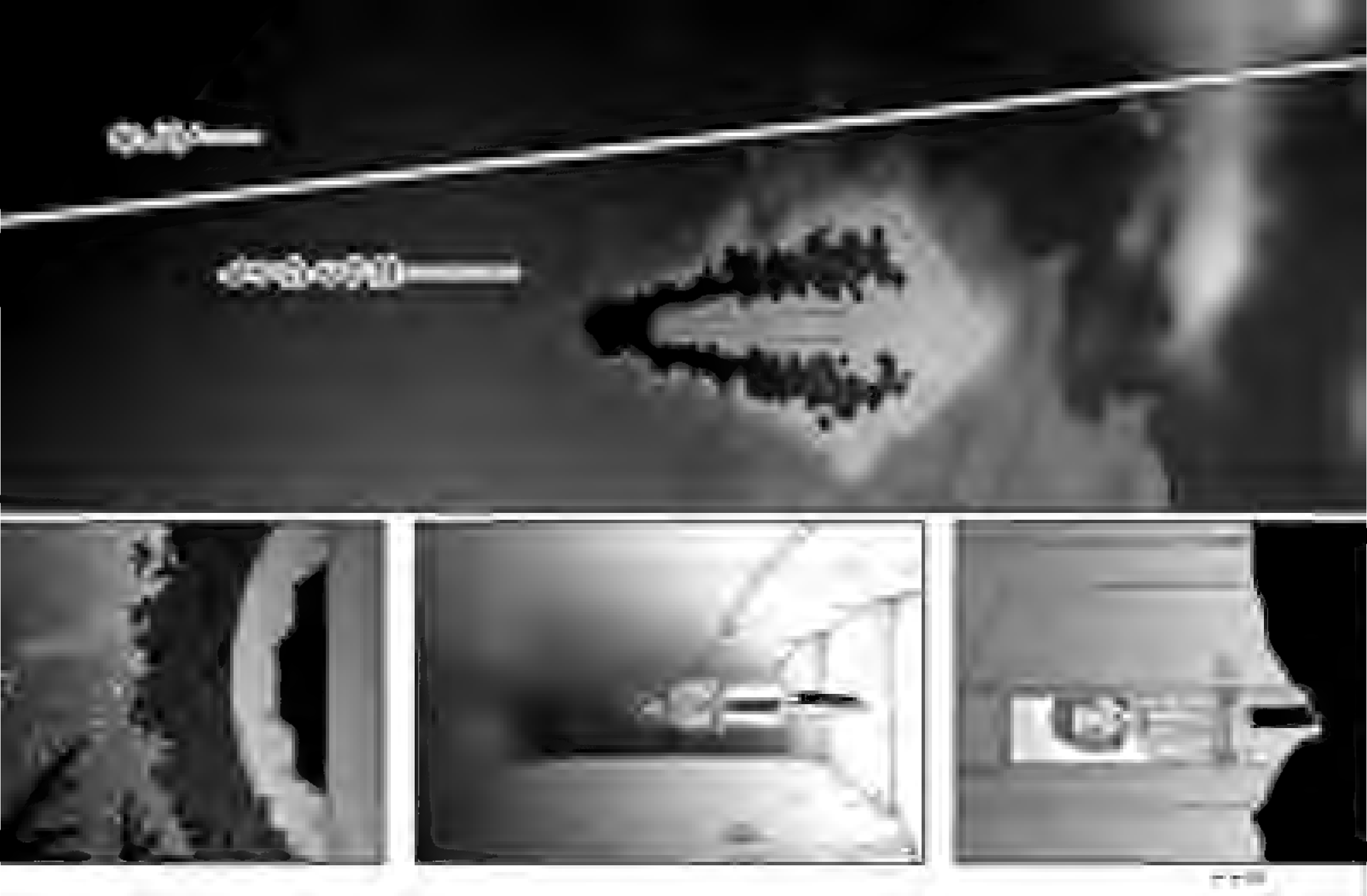
え…!?
お時さん……
それ…
どういうこと……
千紘……
さん……

柚菜……さんの
話を……
聞いてあげた…後
……

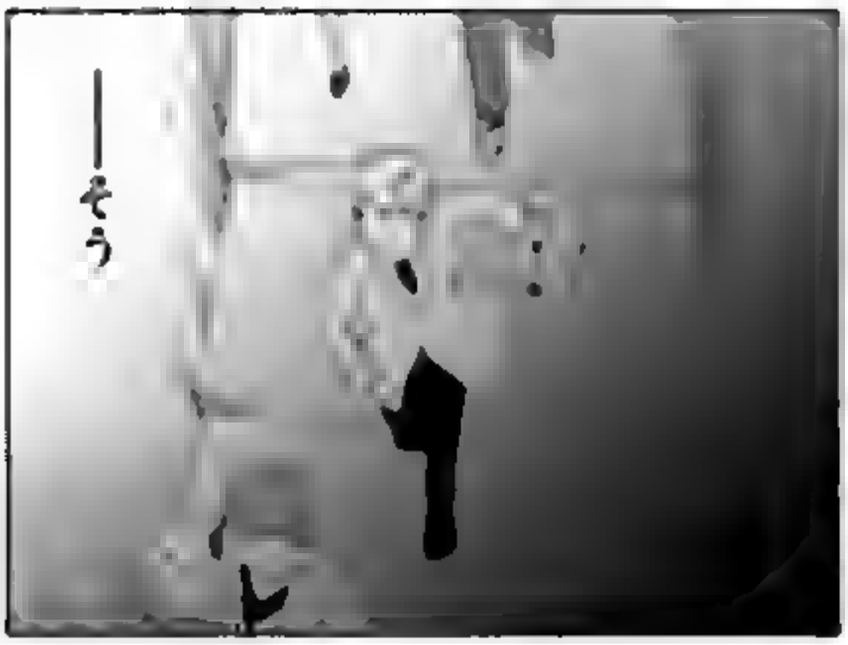
再び…
私を氷漬けに……
してもらう……
時……
茹五郎……さんと
二つ…約束を
したんだべ……


ひとつは……この先
もし千紘…さんが私の…元へ
来るような…ことがあったなら……
きっと…それは……
真実を求めてのこと……なので
代わりに……私から
教えてあげて…ほしい……と


もちろん……茹五郎さんは
自身の口で…いずれは話すと
言うておったべども……
生身のヒトの…寿命を
とうに過ぎておったゆえ……
万が一のことも……考えて
おったのじゃろう……



え……っ


――そう

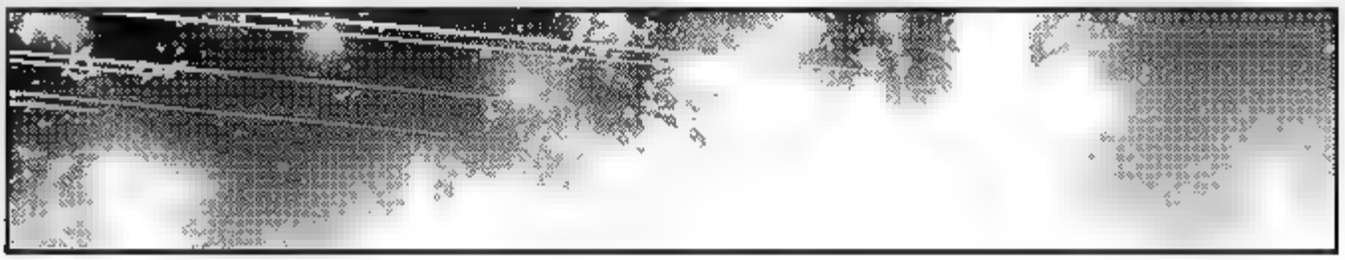
私を
台

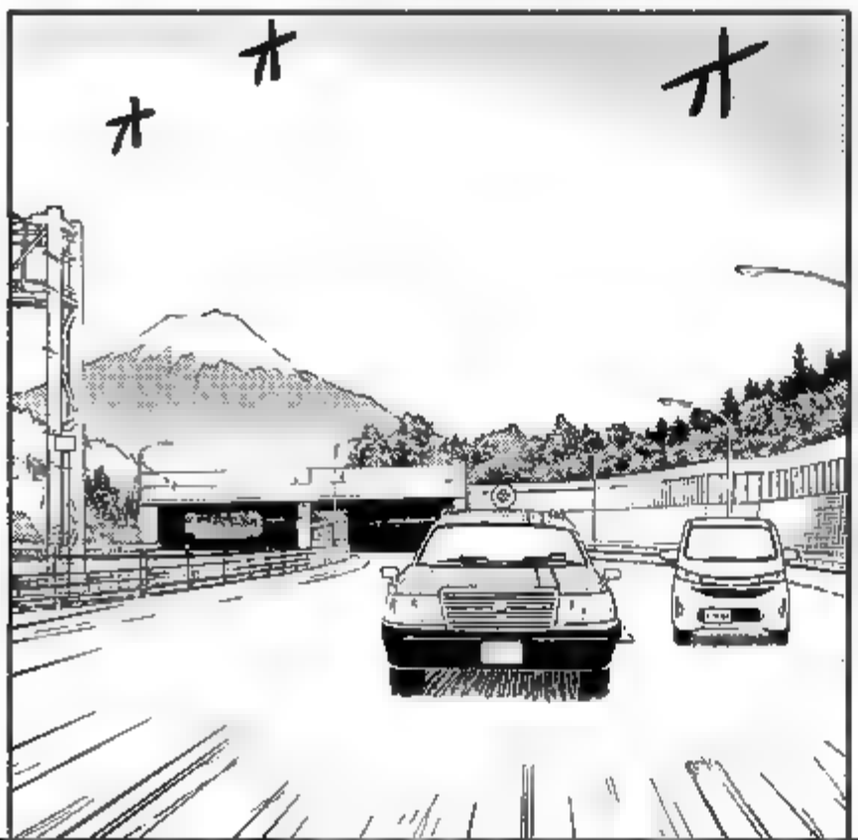
父に
生こうと

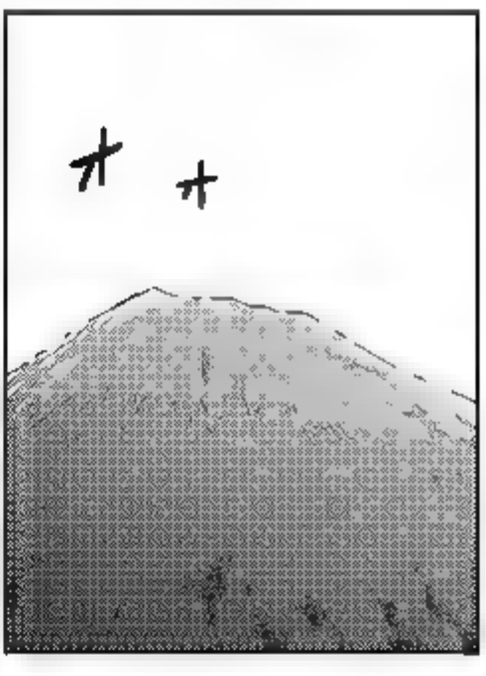
……
今まで本当にすまなかったな……
……
お前は……
お前のやる事を信じ進めばよい――
そっか…
あの手紙は……

じーちゃんの……

遺書だったんだ……







……本当に教授は
自身の死期を
悟っていたみたいね
……
ヨッ
しゃも
しゃも

…Sure
……
Bye…

研究員によれば
教授は生前
島に
埋葬されることを
望んでいたそうよ

……
じーちゃんが
そう望むなら……
降谷家のみんなには
オレが説明して
おくから……
ばふ、
ばふっ

正直
複雑だな……
え？
素直にじーちゃんを
許せるような気持ちじゃ
ないけど……
だからと言って
かーちゃんの……
いや オレや萌路の為に
してくれたことでも
あるし……
……
少しわかるわ
アナタの
気持ち……
私も……
複雑な気持ちで
父と別れたから
……

…そうね

それにオレだって…
礼弥に同じことをしているんだ……

アナタの母と同じ時があと少しでレアさんにも来るってわけよ

おまっ…
別に…今さらオブラートに包んで言うようなことじゃないでしょ？
アナタだってある程度覚悟はしているはずよ

問題は
そこに
至るまでの
ゾンビでいた
期間が幸せだったか
どうか——
でしょ？
……
確かに
そうかもしれない
でも……っ
まだ…オレは
信じたいんだ
……！

礼弥が…アイツが
数か月程度じゃなくて
この先 何年・何十年と
まだここに
居続けられるように
なることを……っ!!
ムリよ
ムリムリ
ばっ
現実を
見なさい!

だって…
わからねーだろ!?
アイツは〝新種〟
なんだからっ!!
ぶーん
確かに
新種では
あるけど……
前例もないことが
そう易々と
起こりうるなんて
認めるわけには
いかないのよ!
ばっ
ぶーん
認める 認めねー
とかじゃなくて
やってみなきゃ
わからねーって話だよ!
ぶーん
わかる
わよっ!
不思議な
病気げんかだな!

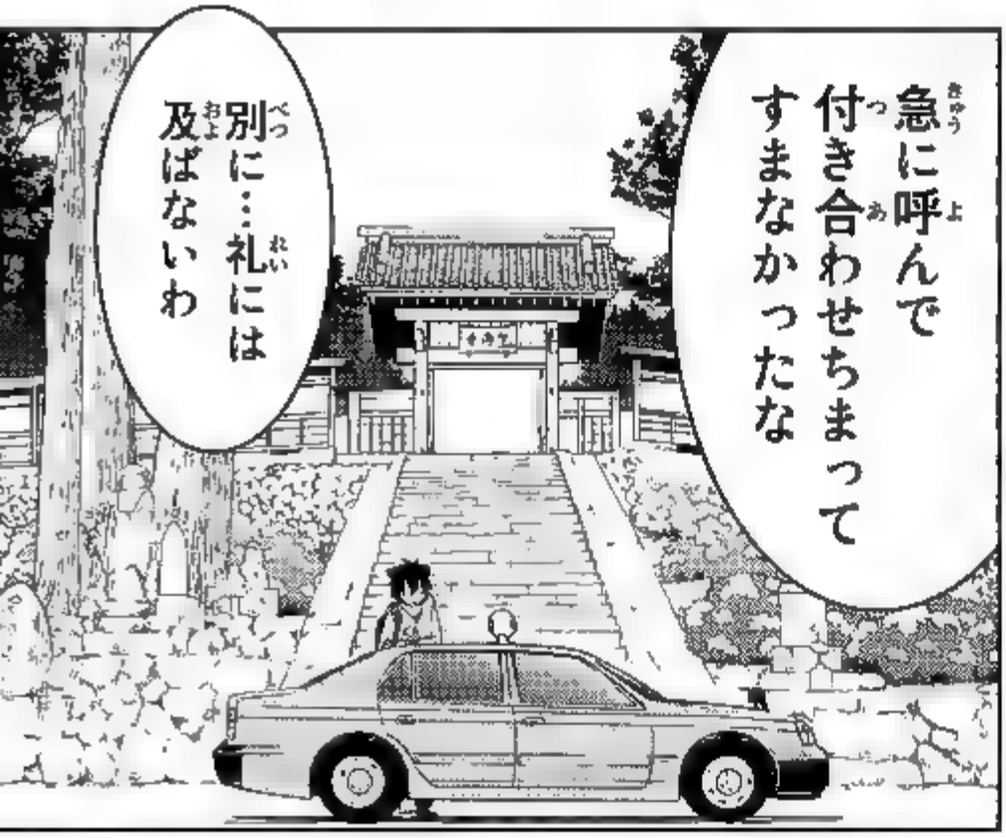
すると
じゃあ何!?
今のアナタに
具体的なアイデアでも
あるってわけ!?

そんなことも無しに
ただ漠然と
希望を抱いたって
結局 最後
余計に辛く…

……
ある

試すべき……ことが
あるとすれば
……
……いや
オレじゃ
違うのかも……

オ
オ
オ
……
？


急に呼んで
付き合わせちまって
すまなかったな
別に…礼には
及ばないわ

寺両紫
ガチャ

…なぁ
礼弥は元気に
やってるか？
……ええ
肉体 精神ともに
コンディションは
安定しているわ

…そっか
あ…
いや
少し……
さっき……
出かける前に
挙動が……
えっ!?

何か異変が
あったのか!?
……昨夜
アナタから
電話があった
直前だけど……
……兄……

?
萌路?
どうし…

萌路!!

礼弥…殿が……

どうした…
その血……

ぎゃ…
……が…

早朝…我が家に来て……
皆に噛み付こうと……
私は…無事
だったが……
父…が

チヒロ！
はっ
はっ
は…

降谷

とーちゃん!!
とーちゃん!
しっかり
しろっ!!!
…ん
おお…
おかえりー…
ふらっ
一体これ
どういうことだよ!!?
もしかして
礼弥が……礼弥が
やったのか!?
こんな……っ
いや!…
何がなんだか……
でも怪我は大したこと
ないよ……

もし礼弥に
噛まれたのなら…
早く手当てしないと
毒が廻って
危ないんだって!!
だから…
毒…!
あ…えっと
とにかく
応急処置
しなきゃ…
ダリン!!
解毒剤とか
持ってるか!?
え…ええ
氷穴での
万が一を考えて
持ってきてるわ
とーちゃんを
処置してあげてくれ!
礼弥に噛まれた
みたいなんだ!!
…
ええっ…
礼弥さんが!?
なんでこの人を!?
わかんねーよ!
とにかく
早く頼む!!

萌路…
救急車は
呼んだのか!?
いや…父が
呼ぶ必要ないって……
この……状況で
人を…呼ぶと……
何かと…
面倒なことに
なるだろう…?
どういった
理由だったのかは
ともかく……
これを…見られたら
警察沙汰になって……
礼弥ちゃんの大切な時期を
……台無しにして
しまうだろ……?
できれば……
そういうことは
避けて…
あげたいんだ……
礼弥ちゃんの為にも……
お前の為にも……な
……!!

これで
もう大丈夫よ
傷口は圧迫止血
しっかりしてあるし
肉体的にも強健だったから
気絶する程度のダメージで
済んでたみたいね
いや…
ありがとう……

礼弥は!?
礼弥は今どこに
いるんだ!?
…
さあ…

私も先程まで
気を失ってしまって
おったゆえ
居所は……
ただ蘭子殿も
おったので
ひょっとすると
二人で
どこかへ……

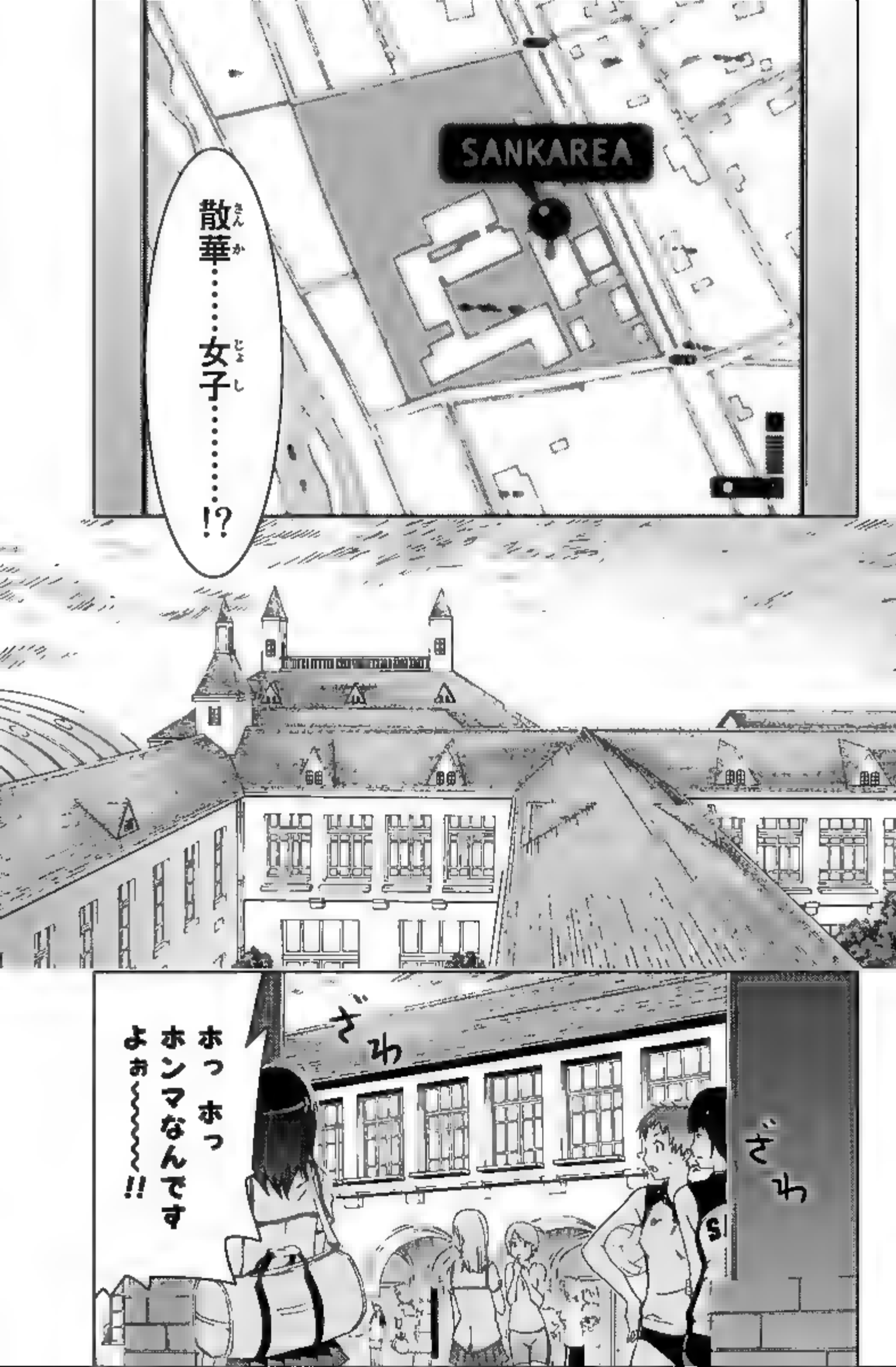
……!
わんこも
いたのか!!
じゃあ…

トゥルルル…
トゥルルル…
くっそ…！
家にも居ないし
ケータイも
繋がらない…！

礼弥さんの
位置なら
わかるわ
まだGPSを
腕に仕込んだ
ままなの

今
どこだ!?
焦らせないで…
ほら ここよ

……
え……!?


SANKAREA
散華……女子……!?
ざわ
ざわ
ホっ ホっ
ホンマなんです
よぉ〜〜〜!!

その時…ウチと雪王丸は目撃してしもうたんどすぅぅぅ〜〜!!
ほげ
えぇ
えぇ
えぇ
そう…生きたハトを礼弥サマが…礼弥サマが……
ガシガシと……
ガシガシっガっガガガ!!
ヘレンちゃん黙って!!!

はー
あ…
はひ……
はー
はー

なんでっ…
アタシが……
朝っぱらから
こんなことしなきゃ
いけないのよ……
あの子なんかの
為に……っ
ポッ
ポッ
はー
はー

いちいち
こんな風に
しなくたって……
出すとこに
出しときゃ……
そ…
それは……
ポッ
はー
はー

何はともあれ
あんな行為
退学処分よ!!
待って下さい!
かあ…

千紘が……
ここに来てくれるまで
……
それまでは
……

あの二人は
私が診ておくわ
ああ…
ありがと
でも 何故
レアさんが
こんな風に……
見境なく人に
襲いかかるなんて……
ギャ！
まるで……

時期的に
肉体はまだ
無事なはず
精神だけ
急に
混濁期を
通り越して
終末期に
なってしまった
よう……
ぎゃ
はっきりとした
原因はわからないけど
……おそらく
記憶の欠落と
好きなモノを食べたい
というゾンビの本能が
混乱をきたして
徐々に自身が
何を食べたいのか
わからなくなって
手当たり次第……
……で

すん…
礼弥はまた……元に戻るのか……？
……わからないわ
一時的な発作なのかもしれないし……
…でもどちらにしても

今彼女を野放しにしておくのは
非常に危険だわ……！

こういう時の為に
研究所では
〝対ゾンビ抑止薬(AZSD)〟を
仕込んだ
OWL-ZOMBIE達が
いたわけよ

今からでも
遅くないわ……
被害を抑える為に
研究所に連絡して18を…

いや…

オレだけで
何とかする

はぁ!?

アナタわかってるの!?
レアさんは
まだ身体能力が
高いままなのよ!?

アナタが
島で追い回された
あの終末期ゾンビとは
危険度が違うのよ!

そんなレアさんと
対峙してアナタだけで
抑止できるわけ!?

それってさ
じゃあ

礼弥が
他のモノを覗ったり
しないように
自分の好物を
思い出させてあげれば
いいんだよな……？

え…
ちょっと
アナタ…
それ……
どういう……
チヒロ

さんかれあ

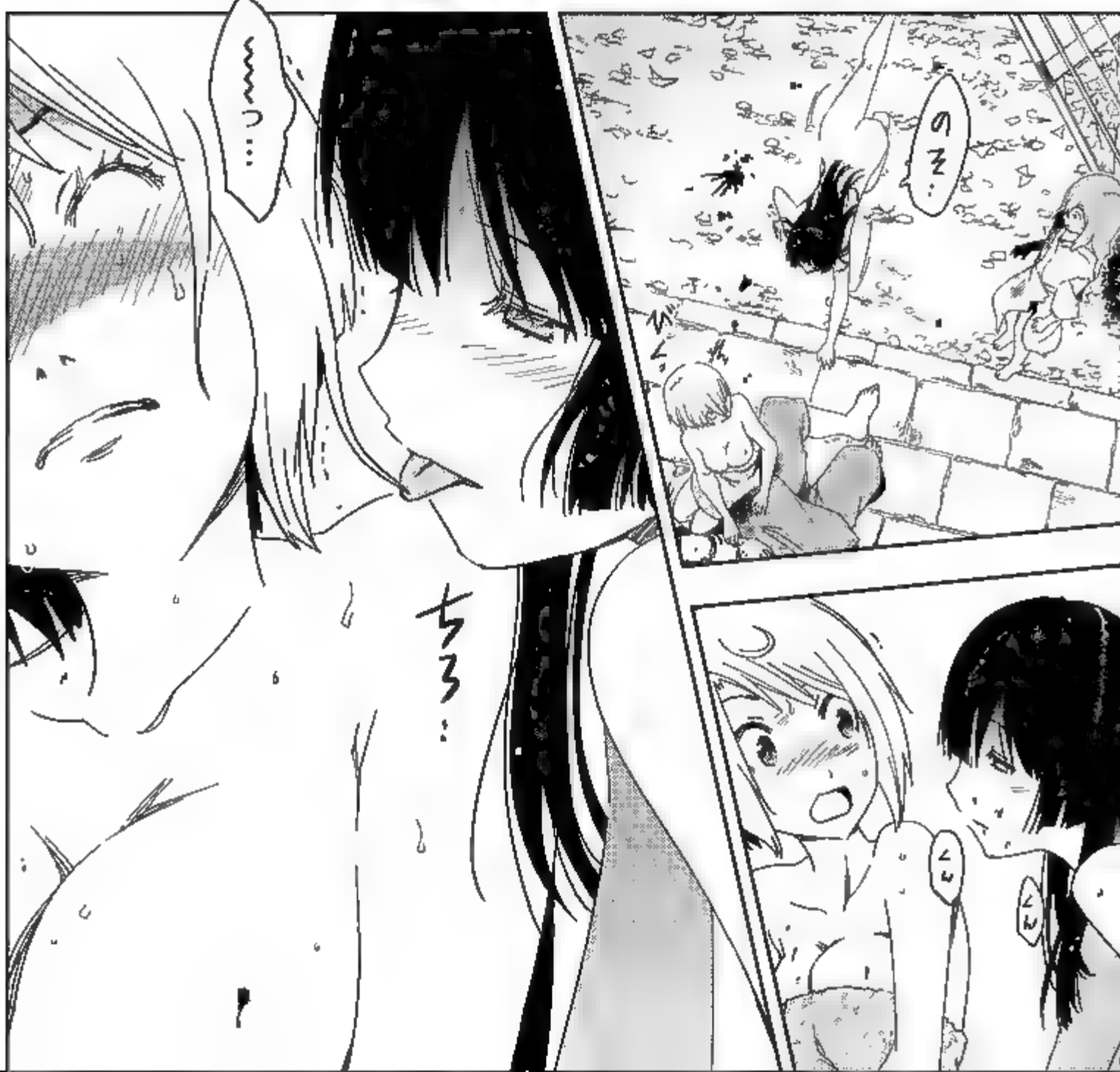
第52話 取り…返し…

ZOMBIE RESURRECTION

私…最近
自分の行動が
わからなくなる時が
あります……
まさに
今もそうで…
どうして
私……
ここに居るのか
思い出せないで
いるのです……
必死に記憶を
辿ってみます
……
……
えっと……

そう
タンちゃん
家から散歩に
出かけて——
お宅に
伺いました
そこでは皆
とても
楽しそうでした——
萌路ちゃん
救急車
呼んで!!
ん〜く
大したこと

…どうして
どうして
礼弥ちゃん
こんなこと
しちゃったの…ッ!!


のぞ…
ズズ…
ちろ…
ハァ
ハァ
ハァ…

……
ちがう
ちがう
ぺた
なぁ…
ぺた
カシャ
パキッ
ぺた
……
ガバッ
萌路ちゃん！
萌路ちゃん!!
あ…っ

ちょっと
どこ行くの!!?
礼弥ちゃん!!
カン
カン
カン

カン
おいおい…
散華女子の生徒……？
なんかやばくね？
え……何あの子……
カン
アレもちがう……
コレもちがう……
ムン
ムン
すっ
てW
カ

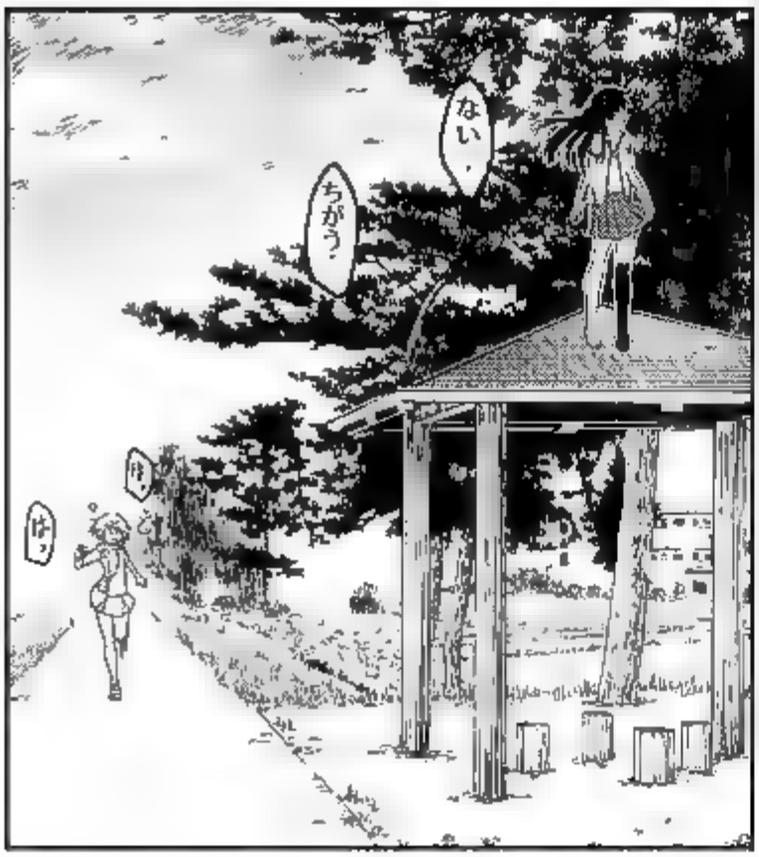
!!
カン
カン
カン
カン
カン
カン
転んだまま起きねーぞ!?
うわ…自殺じゃ…!?
70
礼弥ちゃん!!
むく

礼弥ちゃあああん!!!

たんっ
あっ
教華女子
待ってっ
待ってよ!!
礼弥ちゃん!!!
どこ行くのよぉ!!
た
た

どうして……？
どこに…
あるの……？
私(わたし)……の……

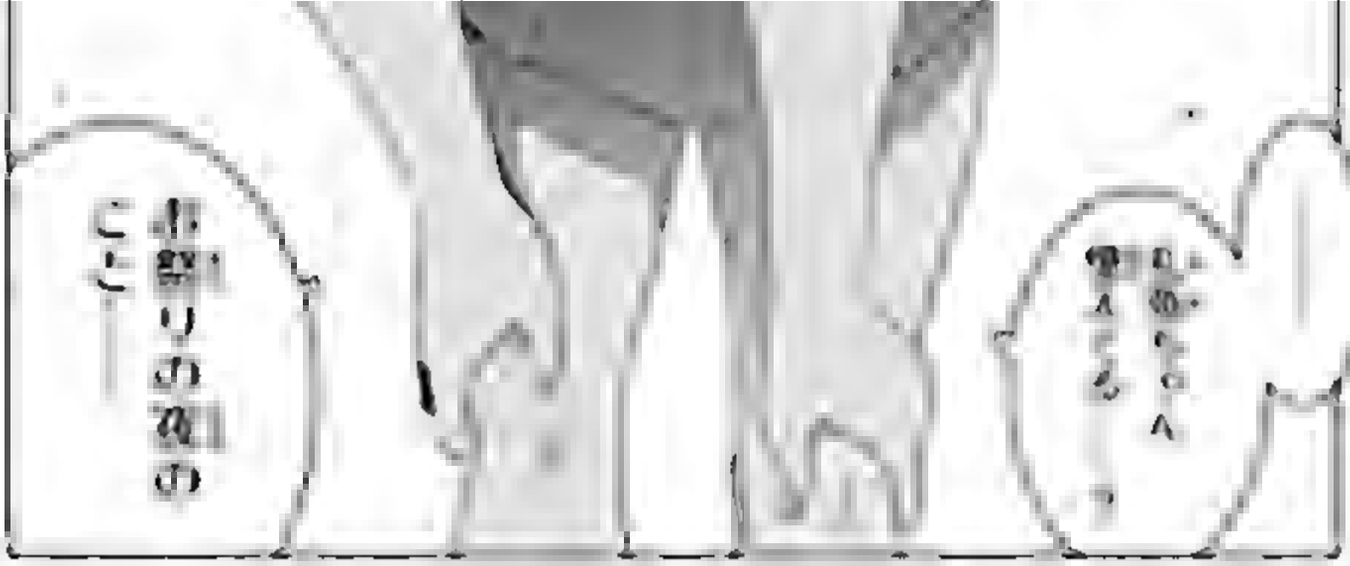
ザザッ
タタン
ザザッ
ザザッ
タタン
ザッ


ない
ちがう
はっ
はっ

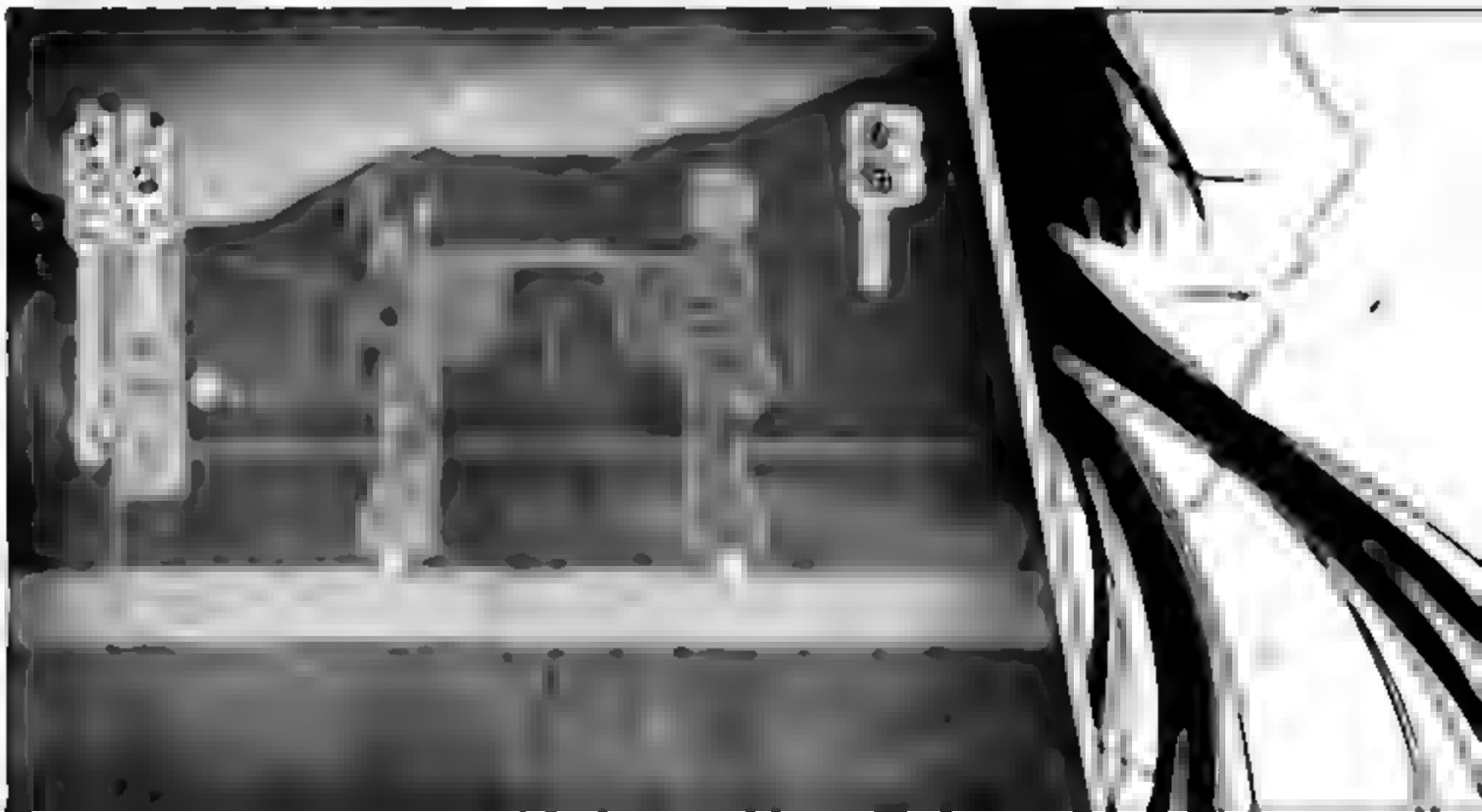
さっき…から……っ
何(なに)が〝ちがう〟…なの!?

はぁ…
このままじゃもう……
は…
取り返しのつかないことになるよ……っ
取り返し……

なんだろう……
あそこの島にいた頃から
大切な〝何か〟を
段々忘れていっている……
気がする……
あの…空のビンに
閉じ込められていたもの
……

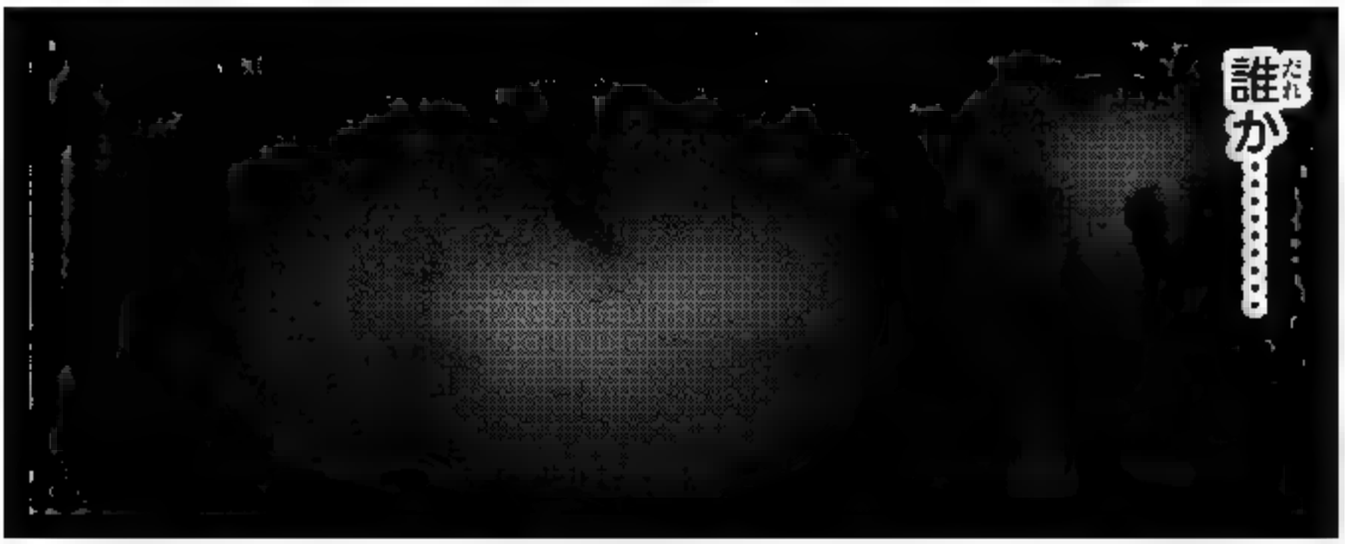

お母さん
事故って
非常口の夜の
ことー

私
お母さんに
時間がムダだって
思ってるんだったら
生きなきゃ!!って
言ったよね



何か…
あの夜……
他にも
誰かと……

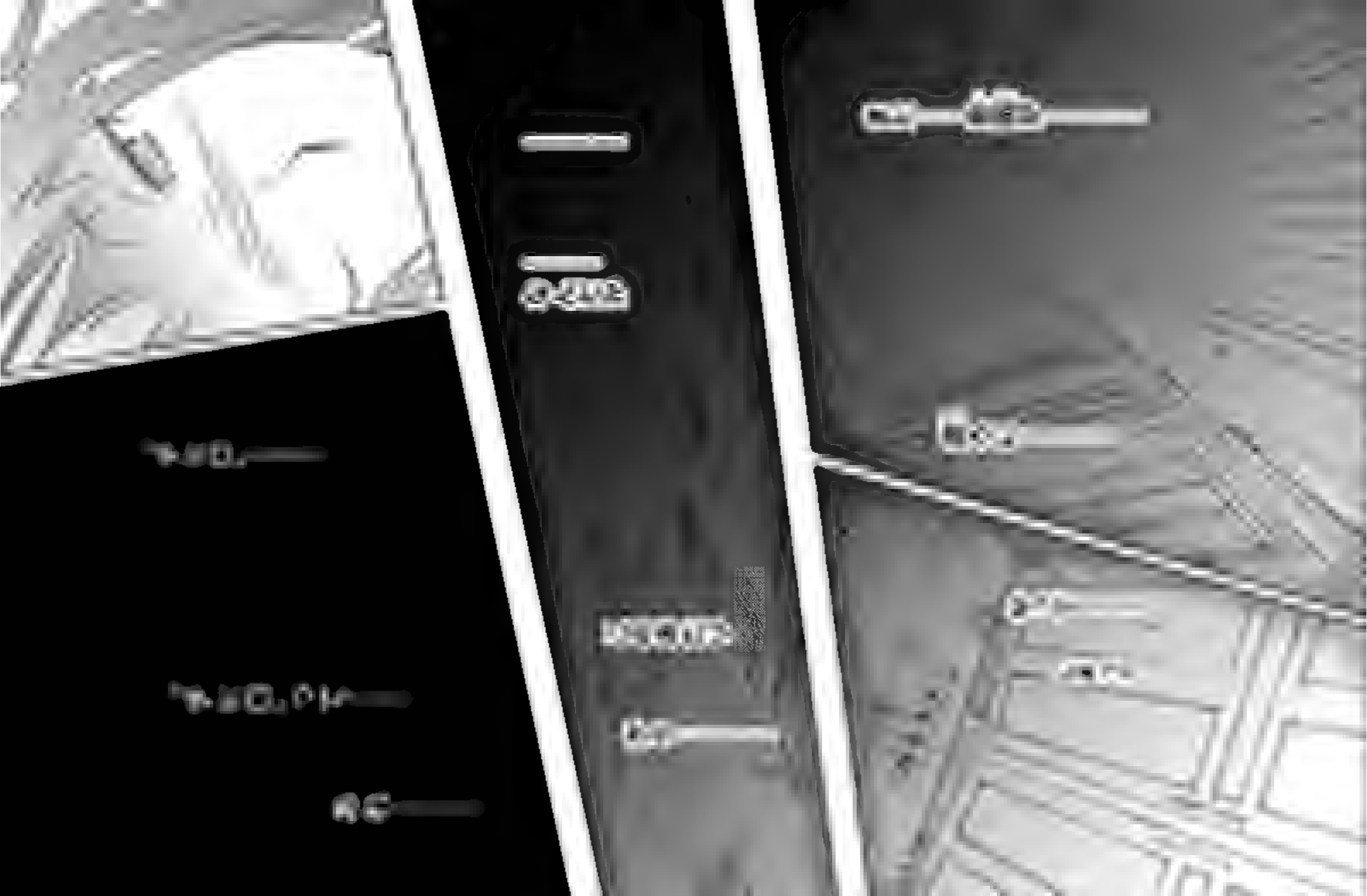
あ…


誰か……

今やっている
礼弥ちゃんの行為
……
普通の
女の子として
〝後悔しない生き方〟
だって最期に
言える……!?

礼弥ちゃんの…
心がしっかりしてないとだめなのよ……
じゃないと……
萌路ちゃんも
呶恩おじさんも……
私も……
チヒロだって

幸せになれないのよ……ッ!!!



最後のこの女性も
残念ながら

ああ
探(さが)さなきゃ
いけないのか…
ここも
あの子(こ)の
ヒントを
もらったような
それは——

はっ
はっ

……
え…と……
あなたは…
たしか……
どこか…
……
なあ…

ここで…少し……
ゆっくりしていってもいいかな……
ンン
ンン……

第11巻に続く
TO BE CONTINUED

巻末おまけ漫画

萌路の禅問答

Q.第7巻に出てきた
ロザリエちゃんは
ロザリア＝ロンバルドから
取った名前ですか？
世界一美しいミイラと
言われているので
気になりました！

ご名答
である

ーー

なむ

なむ

100年前のミイラ
なのにとってもキレイ

付け方は違うが
リボンもそこから
取っているとか

Q.萌路ちゃんは何ゆえ
ゾンビ部とゆうものに
入っているのですか？

入っている
のではなくて
入らされている
のである

Q.第9巻でぱーぶに義足(？)
みたいなのが付いてるのは
千紘がＺｏＭＡから帰って来た後に
ぱーぶに付けてあげたんですか？

ぱぁーぶ

島の帰り際に
兄がダリン殿に頼んで
装着させてあげたそうな

それでも少し
歩きにくそうでは
あるが

Q.雑誌の方ではマンガが
クライマックスに見えますが
「萌路の禅問答」はこれからも
ずっと続くんですよね？

ふむ…
もう連載が始まって
かれこれ4年半
このコーナーが始まって
3年……

さて…実は

す…

皆様にお伝え
する事が
ございます

ご投稿ありがとうございました!

11巻には特別番外編もありますぞ!

※収録されている表現は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、
コミックス発売当時のまま掲載しています。